

～ 朝来市都市計画マスタープラン ～

朝来市のこれからの都市づくり

— 現況資料編 —

平成 25 年 3 月

朝 来 市

目 次

第 1 章 現況資料

| | |
|----------------|----|
| (1) 自然的条件..... | 1 |
| (2) 歴史的条件..... | 3 |
| (3) 社会的条件..... | 4 |
| 1)人口など..... | 4 |
| 2)産業..... | 7 |
| 3)土地利用..... | 14 |
| 4)都市基盤..... | 15 |
| 5)開発..... | 22 |
| 6)その他..... | 23 |
| (4)法規制..... | 27 |
| (5)都市計画..... | 28 |

第 2 章 上位関連計画

| | |
|---------------|----|
| (1) 上位計画..... | 33 |
| (2) 関連計画..... | 43 |

第 1 章 現況資料

(1) 自然的条件

①位置

本市は南但馬地域に属し、姫路からは約 50km、大阪からは約 90km の場所に位置している。

但馬、山陰地方と京阪神を結ぶ交通の要所となっており、北近畿豊岡自動車道と播但連絡自動車道が和田山地域で接続しているほか、JR 山陰本線、JR 播但線も和田山駅で結節している。京阪神からは 2 時間圏内、姫路からは 1 時間圏内である。

位置図



②地勢

面積は 402.98k m²で兵庫県の約 4.8%、但馬地域の約 18.9%を占めている。

市域の 8 割以上が森林で、市の西部には須留ヶ峰、笠杉山、段ヶ峰など 1,000m 級の山々、東部には東床尾山、粟鹿山、青倉山、三国岳など 500~1,000m 級の山々が連なっている。

生野地域に分水嶺があり、第一級河川の円山川が北流し日本海へ流れ、与布土川など多数の支流が存在する。第二級河川の市川は南流し瀬戸内海へ流れ込んでいる。河川沿いに小規模な平地が分布し、与布土川沿いには比較的まとまった面積の平地が存在している。

気候は、日本海型、内陸型気候で、寒暖の差が大きい。

主な山、川及び流域界



市内の主な河川

| 名称 | 延長(m) | 種別 | 水系 | 起点 | 終点 |
|-------|----------|------|-------|------|------|
| 円山川 | 約 30,700 | 一級河川 | 円山川水系 | 生野 | 豊岡市 |
| 神子畑川 | 10,427 | | | 佐囊 | 羽瀨 |
| 与布土川 | 8,495 | | | 与布土 | 玉置 |
| 糸井川 | 7,765 | | | 和田 | 東垣 |
| 東河川 | 6,008 | | | 白井 | 柳原 |
| 多々良木川 | 5,927 | | | 多々良木 | 多々良木 |
| 田路川 | 5,461 | | | 田路 | 羽瀨 |
| 黒川 | 5,400 | | | 筒江 | 市御堂 |
| 八代川 | 5,000 | | | 上八代 | 羽瀨 |
| 粟鹿川 | 4,283 | | | 粟鹿 | 大垣 |
| 市川 | 22,030 | | | 二級河川 | 市川水系 |
| 栃原川 | 5,491 | 栃原 | 神河町瀨 | | |

※市内における延長。円山川の延長は図上計測による数値。

(2) 歴史的条件

古代：古代山陰道の通る、古代但馬の国の中心地

但馬地域には、石器時代や縄文時代から人々が住み始めたとされ、歴史は古い。本市は古代山陰道が通り、畿内と山陰を結ぶ交通の要衝であった。主要な前方後円墳が集中して立地していることから、大和王権とも交易がある程の権力者が統治する、古代但馬の国の政治的中心地であったとされる。律令制度のもと、平野部は荘園として治められた。

中・近世：播磨と但馬の重要な地として繁栄

中世には本地域でも武士が台頭し、播磨と但馬をつなぐ道に位置する地に、山名氏が日本屈指の山城である竹田城を築き、竹田城主太田垣氏が拠点として活躍した。竹田地区は城下町として、また播磨と但馬をつなぐ街道の宿場町としてにぎわい、城主のもと漆器づくりが奨励され、家具づくりが盛んな地区となった。

近・現代：産業がまちの発展を支え、交通の結節点として南但馬の拠点都市へ

9世紀ごろに発見され銀が採掘されていた生野銀山は、近世に産出量の最盛期を迎え生野代官所が設置され、明治時代には政府直轄鉱山として新技術が導入され目覚ましい近代化が起こった。鉱石の輸送のため、生野・飾磨間に馬車専用道路である「銀の馬車道」が敷設された。また、明延鉱山、神子畑鉱山との間にも、鉱石や人を運ぶ専用道路が建設され、後に人員輸送用の電車が走り「一元電車」として親しまれた。生野銀山は三菱合資会社に払い下げられ、大鉱山として昭和48年まで稼働を続け、口銀谷地区は鉱山の街として発展した。

産業としてはほかに、平地の少ない地形条件から古来から養蚕が盛んで、明治期には機械製糸が取り入れられ製糸業も栄えた。梁瀬地区では現在も工場が操業されている。

現在は、山陰地方と京阪神とをつなぐ北近畿豊岡自動車道、播但連絡自動車道や、JR山陰本線、JR播但線が和田山地域で結節し、交通の要衝となっている。高速道路のインターチェンジ周辺には工業団地が立地し、和田山地区及び国道9号沿道では都市的土地利用が進められている。本市は南但馬地域の政治・経済・産業の拠点都市となっている。



茶すり山古墳



竹田城跡



生野銀山



銀の馬車道
(生野鉱山本部前)

(3) 社会的条件

1) 人口など

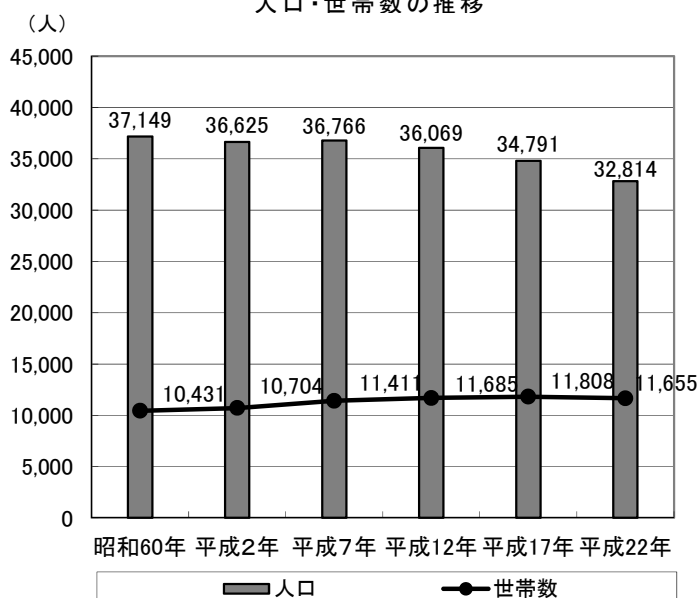
①人口及び世帯数

本市の人口は、平成 22 年国勢調査によると 32,814 人で、世帯数は 11,655 世帯となっている。経年的にみると、人口は昭和 60 年の 37,149 人から減少し続けている。

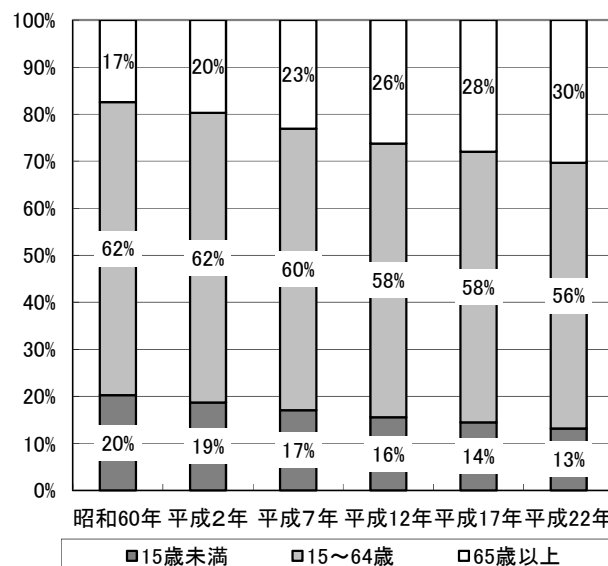
年齢 3 区分別人口をみると、年少人口割合は減少し、老年人口割合は増加傾向にあり、少子高齢化の進行がみられる。平成 22 年現在の老年人口割合は 30.3%で県平均(22.9%)を大きく上回っている。

将来推計人口によれば、兵庫県の人口は平成 27 年以降緩やかに減少が始まるのに対して、朝来市ではほぼ一定の割合で人口の減少が進み、平成 47 年には約 25%が減少することが予想されている。

人口・世帯数の推移



年齢別人口の割合の変化

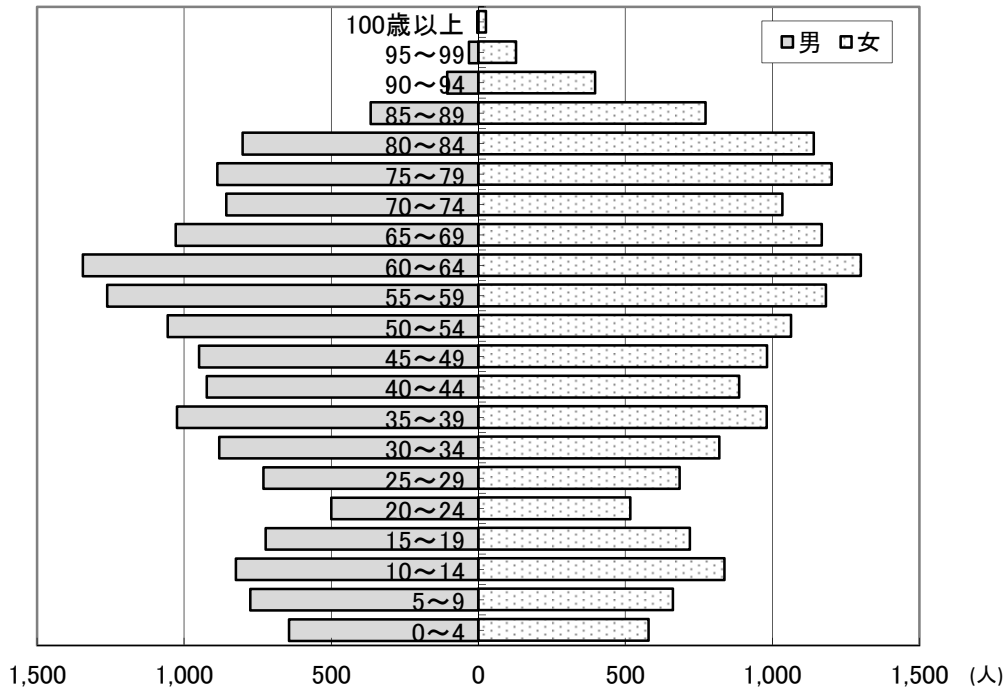


人口・世帯数の推移

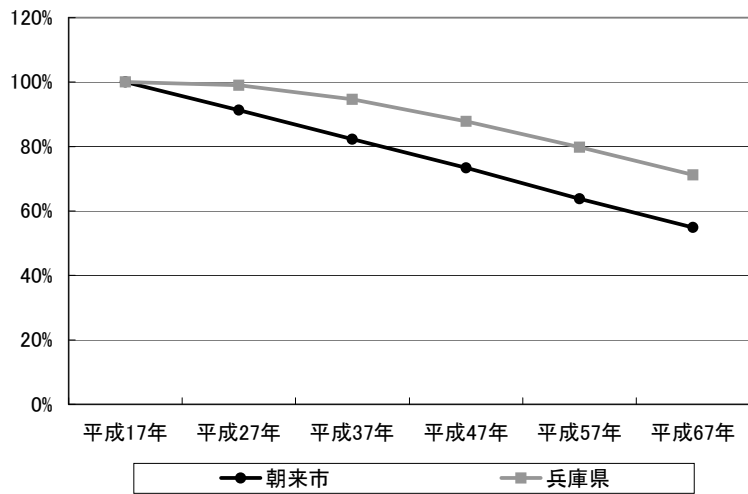
| | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人口 | 37,149 | 36,625 | 36,766 | 36,069 | 34,791 | 32,814 | |
| 増減率 | - | -1.4% | 0.4% | -1.9% | -3.5% | -5.7% | |
| 年齢別人口 | 年少人口 | 7,517 | 6,839 | 6,282 | 5,620 | 5,032 | 4,320 |
| | 割合 | 20.2% | 18.7% | 17.1% | 15.6% | 14.5% | 13.2% |
| | 生産年齢人口 | 23,172 | 22,574 | 22,009 | 20,993 | 20,021 | 18,524 |
| | 割合 | 62.4% | 61.6% | 59.9% | 58.2% | 57.5% | 56.5% |
| 老年人口 | 6,460 | 7,212 | 8,475 | 9,456 | 9,738 | 9,948 | |
| | 割合 | 17.4% | 19.7% | 23.1% | 26.2% | 28.0% | 30.3% |
| 世帯数 | 10,431 | 10,704 | 11,411 | 11,685 | 11,808 | 11,655 | |
| 増減率 | - | 2.6% | 6.6% | 2.4% | 1.1% | -1.3% | |
| 1世帯当たり人員 | 3.6% | 3.4% | 3.2% | 3.1% | 2.9% | 2.8% | |

※年齢別人口では、年少人口とは 0 から 14 歳、生産年齢とは 15 から 64 歳、老年人口とは 65 歳以上の人口を指す。「人口」には、年齢不詳を含む。(国勢調査)

男女別・年齢別人口（平成 22 年）



将来人口推計



| | 平成17年 | 平成27年 | 平成37年 | 平成47年 | 平成57年 | 平成67年 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 朝来市 | 34,791 | 31,779 | 28,639 | 25,544 | 22,192 | 19,113 |
| 兵庫県 | 5,590,601 | 5,535,297 | 5,290,419 | 4,913,228 | 4,460,095 | 3,977,890 |

※人口問題研究所（平成 20 年 5 月）のデータを基に兵庫県が推計した予測値

② 通勤・通学流動

通勤・通学による人口の流動をみると、朝来市に居住し通勤通学する人口 18,299 人のうち、市内にて通勤・通学する人口は 14,311 人、市外に通勤・通学する人口は 3,988 人となっている。市外に居住し市内に通勤・通学する人口は 3,897 人で、流出・流入

は同程度となっている。

本市へ通勤・通学のために流入する人口が多いのは、養父市の 1,673 人、豊岡市の 753 人、福知山市の 217 人である。本市から流出する人口が多いのは、養父市の 1,570 人、豊岡市の 766 人、福知山市の 560 人となっている。

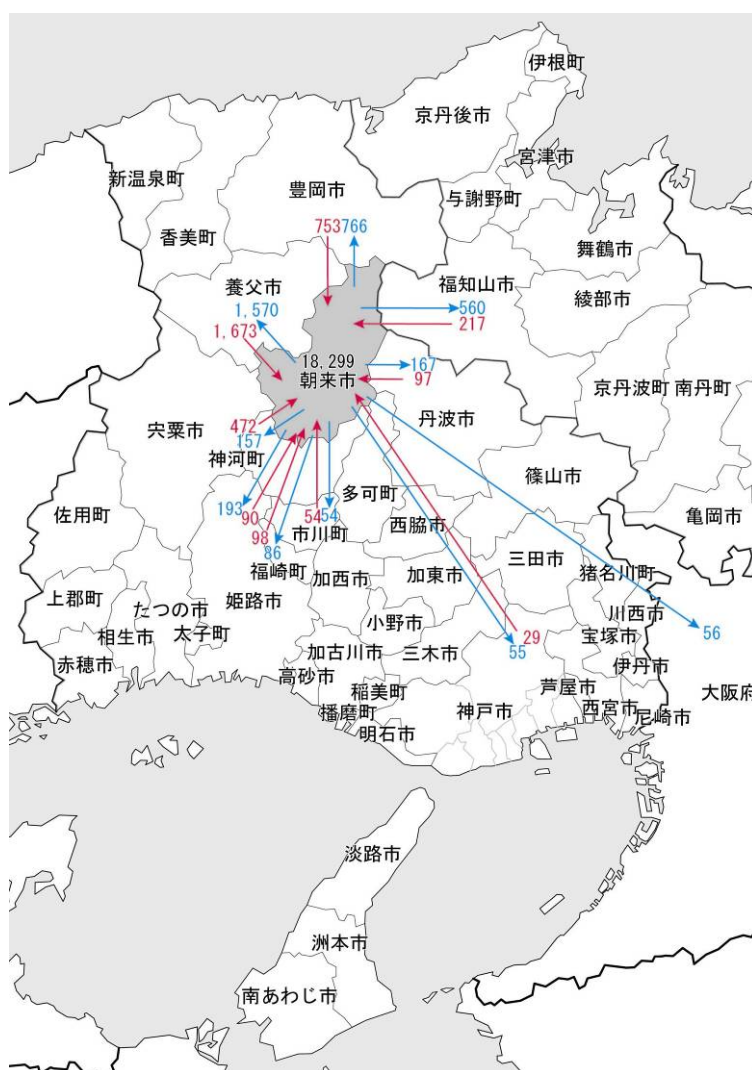
養父市は、市内から流出する人口のうち約 4 割が向かう先となっており、また同程度の人口が流入していることから、結びつきが強いことが読み取れる。

通勤・通学のための流動状況

(人)

| 市内に居住し 通勤通学する人口 | 市内に居住し市内に 通勤通学する人口 | 市内に居住し市外に 通勤・通学する人口 | 通勤・通学のために 市外から流入する人口 |
|--------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|
| 18,299 | 14,311 (78.2%) | 3,988 (21.8%) | 3,897 |

※15歳以上を対象に集計



(平成 17 年国勢調査)

2) 産業

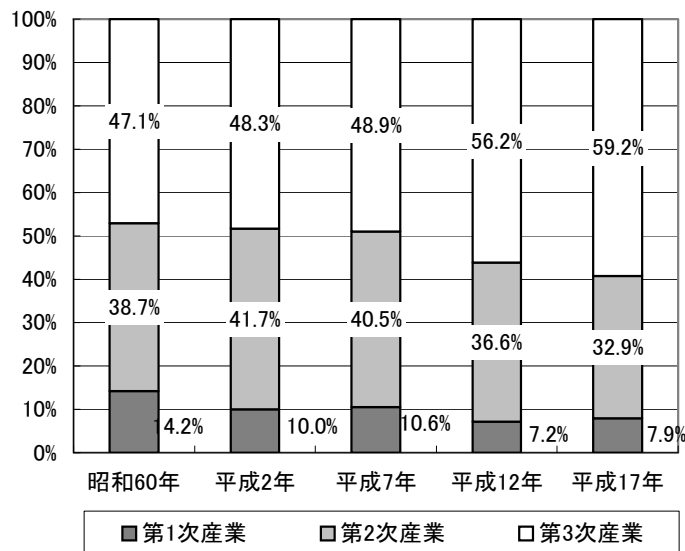
① 産業分類別就業人口

産業分類別就業人口の総数は、平成 17 年は 16,712 人となっており、昭和 60 年以降横ばいから減少の傾向を示している。

産業 3 分類別の割合では、第 1 次産業が 7.9%、第 2 次産業が 32.9%、第 3 次産業が 59.2%となっており、第 1 次産業、第 2 次産業は全県と比較して大きい。昭和 60 年以降は第 1 次、第 2 次産業が縮小してきたものの、第 1 次産業は近年横ばいの傾向を示している。

本市では、第 3 次産業へ重心を移しているものの、第 1 次産業、第 2 次産業は県と比較して依然として重要な産業となっている。

産業分類別就業人口割合



産業分類別就業人口

| | | 昭和60年 | | 平成2年 | | 平成7年 | | 平成12年 | | 平成17年 | |
|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 朝来市 | 総数 | 18,266 | | 17,902 | | 18,794 | | 17,548 | | 16,712 | |
| | 第1次産業 | 2,601 | 14.2% | 1,796 | 10.0% | 1,985 | 10.6% | 1,264 | 7.2% | 1,323 | 7.9% |
| | 第2次産業 | 7,070 | 38.7% | 7,459 | 41.7% | 7,610 | 40.5% | 6,429 | 36.6% | 5,501 | 32.9% |
| | 第3次産業 | 8,595 | 47.1% | 8,647 | 48.3% | 9,199 | 48.9% | 9,855 | 56.2% | 9,888 | 59.2% |
| 兵庫県合計 | 総数 | 2,400,684 | | 2,543,402 | | 2,604,791 | | 2,598,880 | | 2,553,965 | |
| | 第1次産業 | 106,675 | 4.4% | 84,851 | 3.3% | 78,825 | 3.0% | 63,913 | 2.5% | 62,580 | 2.5% |
| | 第2次産業 | 840,154 | 35.0% | 878,606 | 34.5% | 869,988 | 33.4% | 788,846 | 30.4% | 692,213 | 27.1% |
| | 第3次産業 | 1,439,139 | 59.9% | 1,554,059 | 61.1% | 1,632,542 | 62.7% | 1,698,171 | 65.3% | 1,740,780 | 68.2% |

※ 総数は労働力状態「不詳」を含む。

(国勢調査)

② 農業

本市における平成 22 年の総農家数は、2,686 戸となっている。そのうち販売農家は 1,429、自給的農家は 1,257 である。経年的にみると平成 12 年から 22 年にかけて、総農家数は約 2 割の減少となっており、販売農家が 3 割減少し、自給的農家が 1 割増加している。経営耕地面積は、平成 22 年は 1,297ha で、平成 12 年からは 13% の減少となっている。

全県と比較すると、比較的経営耕地面積規模が小さい農家の割合が大きい。経年変化をみると、5ha 以上の大規模な農地及び 0.3ha 未満の狭小な農地を経営する農家が増加し、規模については二極化の傾向にある。

本市では、特産物として岩津ねぎの栽培が盛んに行われている。

農家数など

| | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 増減率 |
|------------|-------|-------|-------|------|
| 総農家数(戸) | 3,268 | 3,004 | 2,686 | -18% |
| 販売農家 | 2,127 | 1,724 | 1,429 | -33% |
| 自給的農家 | 1,141 | 1,280 | 1,257 | 10% |
| 経営耕地面積(ha) | 1,649 | 1,439 | 1,297 | -13% |

経営耕地面積規模別農家数

| | 総農家計 | 経営耕地面積別農家数 | | | | | | | | | |
|-------|-----------|------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|------|
| | | 0.3ha未満 | 0.3~0.5ha | 0.5~1.0 | 1.0~1.5 | 1.5~2.0 | 2.0~3.0 | 3.0~4.0 | 4.0~5.0 | 5.0以上 | |
| 朝来市 | 平成12年 | 3,268 | 1,145 | 953 | 905 | 167 | 46 | 29 | 15 | 4 | 4 |
| | 平成17年 | 3,004 | 1,286 | 753 | 755 | 128 | 36 | 27 | 8 | 3 | 10 |
| | 平成22年 | 2,686 | 1,260 | 579 | 633 | 122 | 40 | 30 | 12 | | 10 |
| | 平成22年構成比 | — | 46.9% | 21.6% | 23.6% | 4.5% | 1.5% | 1.1% | 0.4% | 0.0% | 0.4% |
| | H22/12増減率 | -18% | 10% | -39% | -30% | -27% | -13% | 3% | -37% | | 150% |
| 兵庫県合計 | 平成12年 | 114,523 | 37,549 | 27,119 | 34,457 | 10,415 | 2,882 | 1,295 | 366 | 167 | 273 |
| | 平成17年 | 104,990 | 40,338 | 21,571 | 29,140 | 9,049 | 2,682 | 1,297 | 396 | 163 | 354 |
| | 平成22年 | 95,367 | 39,037 | 17,374 | 25,291 | 8,473 | 2,741 | 1,410 | 662 | | 429 |
| | 平成22年構成比 | — | 40.9% | 18.2% | 26.5% | 8.9% | 2.9% | 1.5% | 0.7% | 0.0% | 0.4% |
| | H22/12増減率 | -17% | 4% | -36% | -27% | -19% | -5% | 9% | 24% | | 57% |

※耕地面積 0.3ha 未満の農家の件数には、販売農家の例外規定及び自給的農家を含んでいる
(農林業センサス)

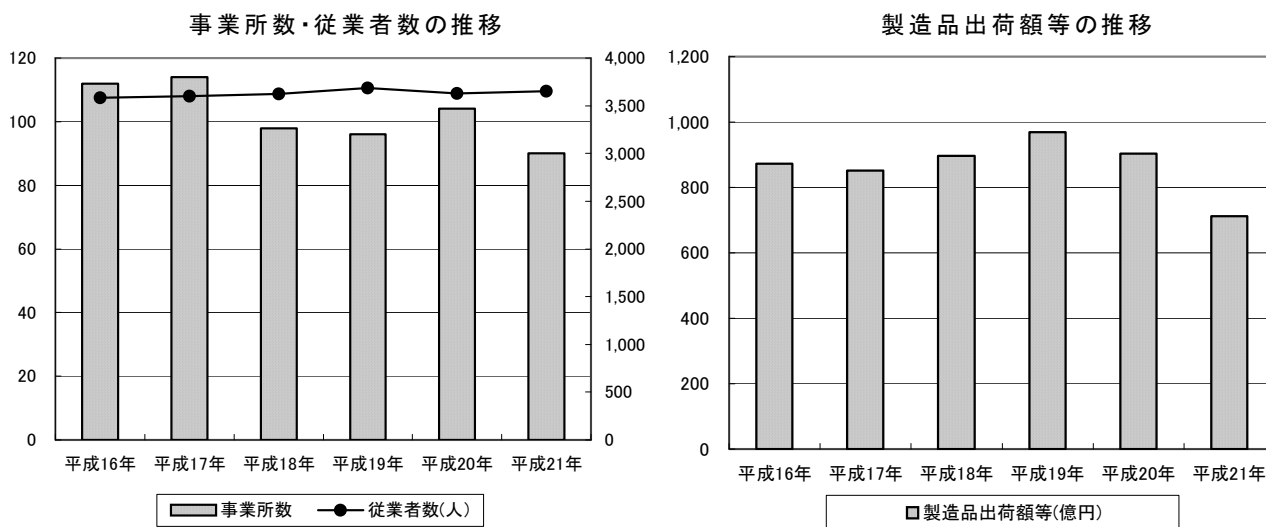
③ 製造業

本市の製造業を営む事業所数は、平成 21 年で 90 事業所、従業者数は 3,652 人、製造品出荷額等は 713 億円となっている。経年的にみると、平成 16 年以降、事業所数、製造品出荷額等は減少し、従業者数は横ばいの傾向にある。一事業所当たり従業者数は増加傾向を示していることから、中小規模の事業所が減少していることが伺える。

一人当たり製造品出荷額等は 217 万円/人で、但馬地域の中で存在感を示している。製造品出荷額等の多い主要な製造業は、食料品製造業、金属製品製造業、繊維工業、

電子部品等製造業などである。

本市では、古くからの地場産業である金属バネ製造で培われた金属加工技術を活かし、環境産業（電池部品製造等）への進出が活発になってきている。



| | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |
|------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業所数 | 112 | 114 | 98 | 96 | 104 | 90 |
| 従業者数(人) | 3,584 | 3,598 | 3,624 | 3,687 | 3,629 | 3,652 |
| 製造品出荷額等(万円) | 8,718,165 | 8,517,591 | 8,968,270 | 9,690,627 | 9,033,738 | 7,125,472 |
| 一事業所当たり 従業者数(人) | 32 | 32 | 37 | 38 | 35 | 41 |
| 一事業所当たり 製造品出荷額等(万円) | 77,841 | 74,716 | 91,513 | 100,944 | 86,863 | 79,172 |

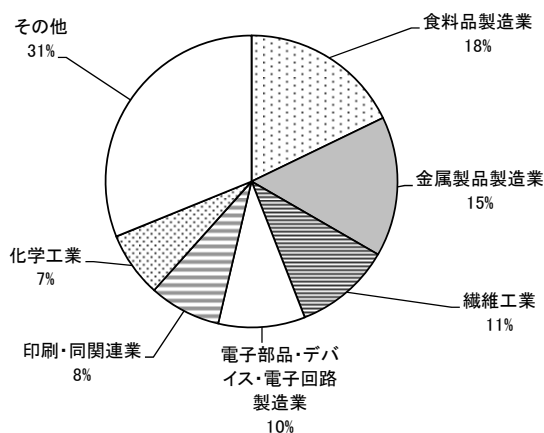
※ 従業員 4 人以上の事業所を対象
(工業統計調査)

人口 1 人当たり製造品出荷額等の比較(平成 21 年)

| | 製造品出荷額等 (万円) | 人口 (人) | 一人当たり 製造品出荷額 (万円/人) |
|-------|-----------------|-----------|---------------------------|
| 朝来市 | 7,125,472 | 32,814 | 217 |
| 但馬地域 | 23,534,100 | 180,607 | 130 |
| 兵庫県合計 | 1,342,302,780 | 5,588,133 | 240 |

※平成 21 年工業統計調査確報(県独自集計)
※人口は平成 22 年国勢調査

製造品出荷額等の内訳(平成 21 年)



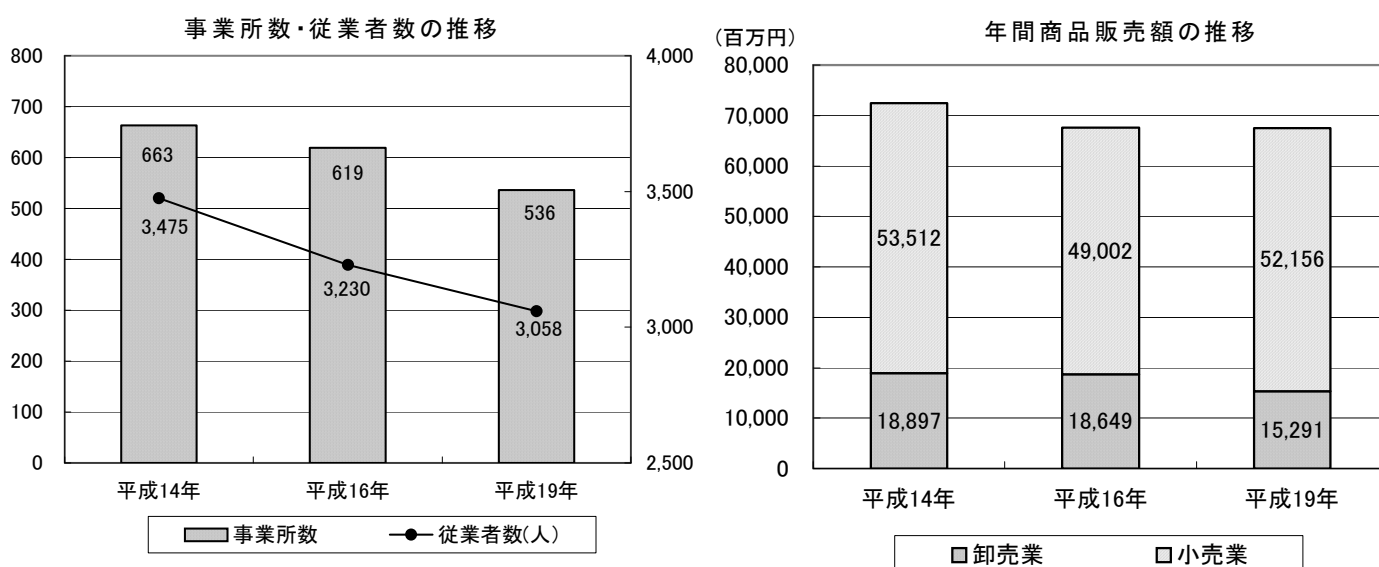
※中分類で 5%未満のものについては、「その他」に分類した
(工業統計調査)

④ 商業

本市における平成19年の商業を営む事業所数は536、従業者数は3,058人である。そのうち、小売業の事業所数は464（87%）、卸売業は72（13%）となっている。小売業の年間商品販売額は522億円（77%）、卸売業は153億円（23%）である。

小売業については、事業所数は平成14年から19年にかけて22%減少しているのに対し、年間商品販売額は3%の減少、従業者数及び売り場面積の総面積は約10%の減少にとどまっている。一店舗あたりの従業者数と売り場面積が増大し、また売り場効率も増大していることから、店舗の大型化、経営の効率化が進む一方で、小規模零細経営の小売店が淘汰される傾向が読み取れる。

市内の大型店舗については、店舗面積の合計は37,273㎡で、大型化が進んでいる。近隣市の大型店の分布状況と比較すると、最も集積が進んでいるのは福知山市で合計面積が約83,800㎡、続いて豊岡市が約63,100㎡となっており、本市は丹波市に続いて商業の集積がある。一人当たり年間商品販売額は159万円/人で、但馬地域の113万円/人を上回っており、市外から購買人口を吸引している可能性がある。



| | | 平成14年 | 平成16年 | 平成19年 | H19/H14 増減率 |
|-----|------------------|--------|--------|--------|----------------|
| 小売業 | 事業所数 | 593 | 549 | 464 | -21.8% |
| | 従業者数(人) | 2,983 | 2,816 | 2,661 | -10.8% |
| | 年間商品販売額 (百万円) | 53,512 | 49,002 | 52,156 | -2.5% |
| 卸売業 | 事業所数 | 70 | 70 | 72 | 2.9% |
| | 従業者数(人) | 492 | 414 | 397 | -19.3% |
| | 年間商品販売額 (百万円) | 18,897 | 18,649 | 15,291 | -19.1% |
| 合計 | 事業所数 | 663 | 619 | 536 | -19.2% |
| | 従業者数(人) | 3,475 | 3,230 | 3,058 | -12.0% |
| | 年間商品販売額 (百万円) | 72,410 | 67,653 | 67,447 | -6.9% |

(商業統計調査)

小売業の推移(平成19年)

| | 事業所数 | 年間商品販売額 (百万円) | 売り場面積 (㎡) | 一店舗当たり 売り場面積(㎡) | 売り場効率 (万円/㎡) |
|------------|------|------------------|--------------|--------------------|-----------------|
| 平成14年 | 593 | 53,512 | 72,277 | 122 | 74 |
| 平成16年 | 549 | 49,002 | 71,417 | 130 | 69 |
| 平成19年 | 464 | 52,156 | 65,328 | 141 | 80 |
| H19/H14増減率 | -22% | -3% | -10% | 16% | 8% |

(商業統計調査)

小売業の状況比較(平成19年)

| | 年間商品販売額 (百万円) | 人口 (人) | 一人当たり年間販売額 (万円/人) |
|--------|------------------|-----------|----------------------|
| 朝来市 | 52,156 | 32,814 | 159 |
| 但馬地域合計 | 213,058 | 180,607 | 118 |
| 兵庫県合計 | 5,487,306 | 5,588,133 | 98 |

※人口は平成22年国勢調査(商業統計調査)

大型小売店舗の立地状況

| 店舗名 | 店舗面積 (㎡) | 述べ床面積 (㎡) | 開設年月 | 業態 | 小売り店数 | 立地タイプ |
|---------------------|-------------|--------------|----------|---------|-------|-------|
| ケーズデンキ和田山パワフル館 | 3,003 | 不明 | 2008年3月 | 専門店 | 1 | 郊外道路 |
| 竹田家具本店 | 3,663 | 不明 | 2003年12月 | 専門店 | 1 | 郊外道路 |
| ファッションセンターしまむら和田山店 | 1,223 | 不明 | 2003年4月 | 専門店 | 1 | 郊外道路 |
| 和田山SC・エスタ(ジャスコ和田山店) | 20,289 | 27,472 | 2000年3月 | スーパー | 26 | 郊外道路 |
| ヒラキ生野店 | 1,905 | 5,671 | 1998年2月 | スーパー | 1 | その他 |
| 家具直売センター支店 | 1,180 | 1,332 | 1990年1月 | 専門店 | 1 | 郊外道路 |
| ホームセンタージュテンドー和田山店 | 1,450 | 1,620 | 1986年3月 | ホームセンター | 1 | その他 |
| 家具直売センター本店 | 1,222 | 1,390 | 1978年7月 | 専門店 | 1 | その他 |
| 稲垣家具センター | 1,495 | 2,817 | 1975年7月 | 専門店 | 1 | その他 |
| 太田家具 | 1,843 | 2,197 | 1974年3月 | 専門店 | 1 | その他 |
| 平均 | 3,727 | 6,071 | - | - | 4 | - |
| 計 | 37,273 | 42,499 | - | - | 35 | - |

(2011年全国大型小売店総覧)

大型小売店舗の立地状況(周辺市との比較)

| | 既存 | | 新規出店予定 | | 合計店舗数 | 平均店舗面積 (㎡) |
|------|-----|-------------|--------|-------------|-------|---------------|
| | 店舗数 | 店舗面積 (㎡) | 店舗数 | 店舗面積 (㎡) | | |
| 福知山市 | 20 | 83,884 | 0 | 0 | 20 | 2,097 |
| 豊岡市 | 18 | 63,102 | 2 | 5,850 | 20 | 1,724 |
| 丹波市 | 10 | 45,617 | 0 | 0 | 10 | 2,281 |
| 朝来市 | 10 | 37,273 | 0 | 0 | 10 | 1,864 |
| 宍粟市 | 5 | 24,053 | 0 | 0 | 5 | 2,405 |
| 養父市 | 2 | 14,671 | 0 | 0 | 2 | 3,668 |
| 神河町 | 1 | 3,420 | 0 | 0 | 1 | 1,710 |

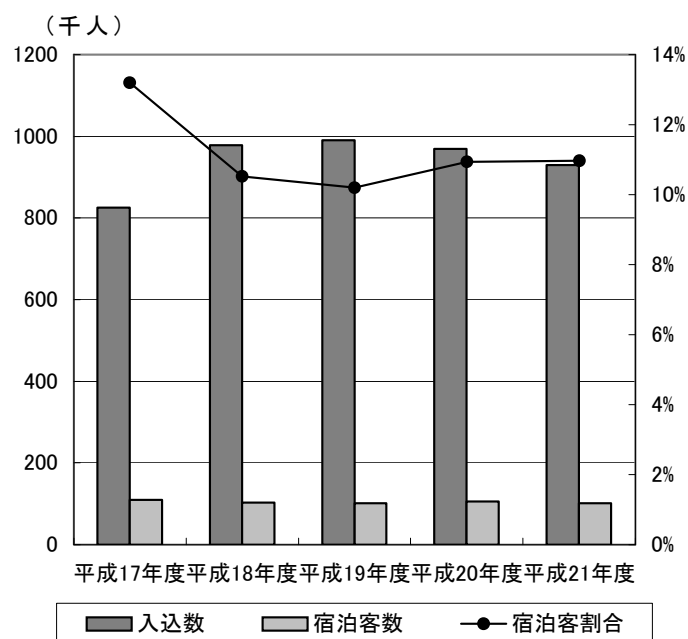
(2011年全国大型小売店総覧)

⑤ 観光

平成 21 年に本市を訪れた観光客総数は約 93 万人で、うち宿泊客は 12.3%である。平成 17 年以降、約 80 万人から 100 万人の間を推移しており、やや減少傾向にある。県外客は約 27 万人と、全体の 29%となっている。

観光の目的別では、公園等が最も多く 12 万人、続いてまつりが多くなっている。

宿泊別客数・宿泊率



宿泊・居住地・目的別客数

| | | (千人、%) | | | | |
|---------|-----------|--------|-------|-------|-------|-------|
| | | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
| 観光客総数 | | 826 | 979 | 990 | 969 | 930 |
| 日帰り・宿泊別 | 日帰り客 | 717 | 876 | 889 | 863 | 828 |
| | 宿泊客 | 109 | 103 | 101 | 106 | 102 |
| | 宿泊客割合 | 15.2% | 11.8% | 11.4% | 12.3% | 12.3% |
| 居住地別 | 県外客 | 191 | 271 | 282 | 271 | 271 |
| | 県内客 | 635 | 708 | 708 | 698 | 659 |
| | | 23% | 28% | 28% | 28% | 29% |
| | | 77% | 72% | 72% | 72% | 71% |
| 目的別 | 公園・遊園地 | 81 | 97 | 103 | 105 | 119 |
| | まつり | 140 | 133 | 132 | 138 | 123 |
| | ゴルフ・テニスなど | 57 | 62 | 61 | 63 | 57 |
| | 社寺参拝 | 50 | 47 | 46 | 44 | 45 |
| | 自然観賞 | 66 | 75 | 74 | 65 | 56 |
| | その他 | 42 | 32 | 48 | 51 | 46 |

(兵庫県観光客動態調査)

⑥工業団地

生野工業団地、和田山工業団地、山東工業団地のほかに、2箇所の工業適地が和田山及び岩津に整備されている。

和田山弥生が丘業務施設用地は、北近畿豊岡自動車道・播但連絡道路和田山インターチェンジから5km、岩津地区は播但連絡道路朝来インターチェンジから1kmの位置に立地している。

それぞれ、優遇制度を活用可能である。

市内の工業適地

| 名称 | 所在地 | 面積 (㎡) | 用途の 指定 | 建ぺい率 容積率 (%) | 優遇制度 |
|-------------------|----------------------|--------------------------------------|-----------|--------------------|---|
| 和田山弥生が丘 業務施設用地 | 和田山町 34 番 ほか 3 箇所 | ①3,035 ②2,434 ③2,485 ④2,439 | なし | 60 150 | (県)産業集積促進地区 (市)固定資産税相当額 奨励金、雇用促進奨励金 |
| 岩津地区 | 岩津 426 番地 1 ほか | 9,918 | なし | なし | (国)電源地域 (市)固定資産税相当額 奨励金、雇用促進奨励金 |

(兵庫県「但馬の工場適地情報」)



岩津地区



和田山弥生が丘業務施設用地

3) 土地利用

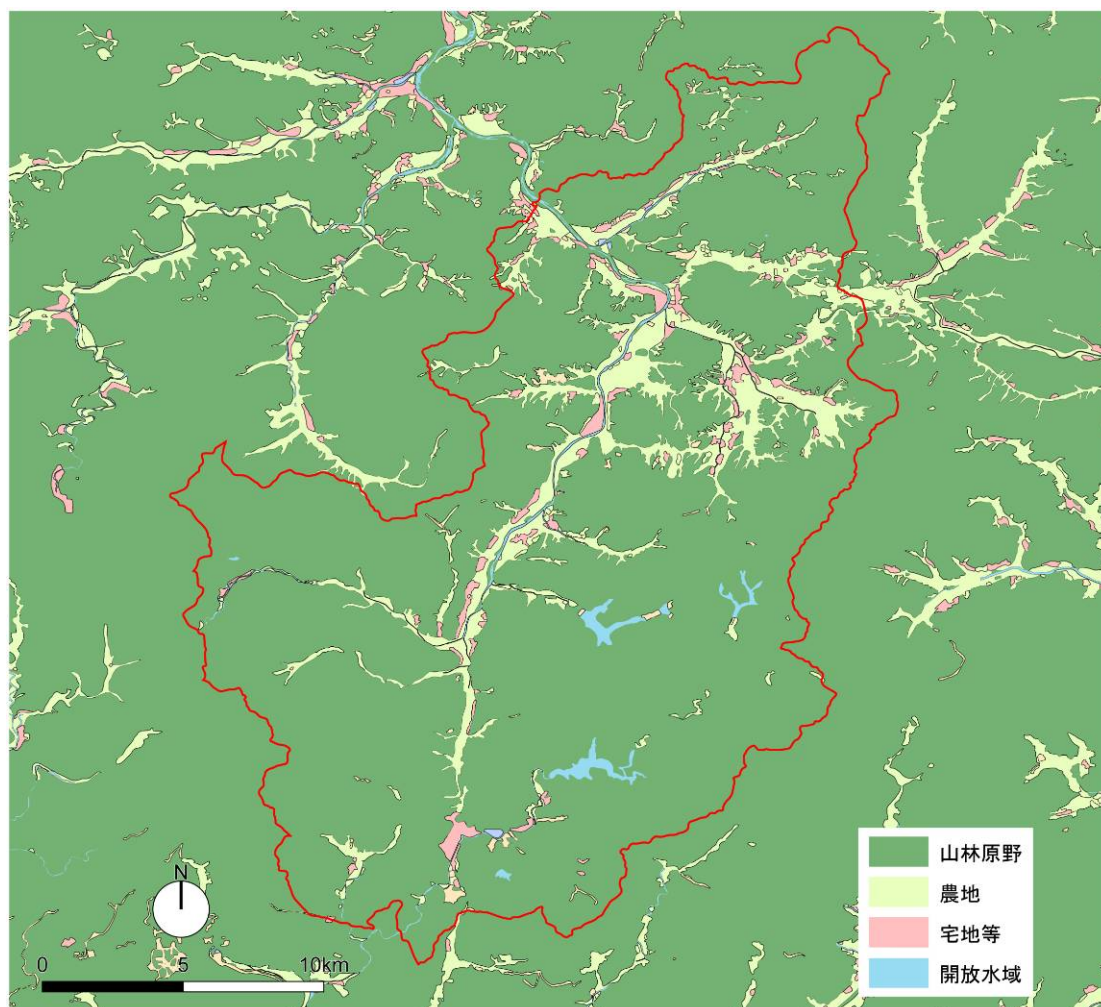
山林原野が最も多く、8割以上を占めている。続いて多いのは農地で、約1割となっている。宅地等は約3%である。

土地利用の状況

| | 山林原野 | 農地 | 宅地等 | 開放水域 | 合計 |
|--------|--------|-------|-------|------|--------|
| 面積(ha) | 33,933 | 4,767 | 1,082 | 516 | 40,298 |
| 割合 | 84.2% | 11.8% | 2.7% | 1.3% | 100% |

※宅地等に、市街地及び工場地帯、造成地を含む

※図上計測による



土地利用状況図

※自然環境保全基礎調査(環境省)のGISデータをもとに作成

4) 都市基盤

① 道路

播但連絡自動車道により姫路方面と結ばれているほか、北近畿豊岡自動車道が丹波地域を経て京阪神と結んでいる。

和田山地域で広域幹線道路の国道9号と312号が合流しており、広域ネットワークが形成されている。

交通量の動向としては、和田山ジャンクションまで開通している北近畿豊岡自動車道は、平成17年から22年の5年の間に2.5倍程度交通量を伸ばしている。北近畿豊岡自動車道と並走する一般県道などでは減少が顕著であり、平成11年から22年の間に約1割程度に減少した路線もある。

また、市を南北につなぐ国道312号においても減少傾向にある。

和田山地区で開発された弥生が丘周辺の路線では増加傾向にある。

交通量の動向

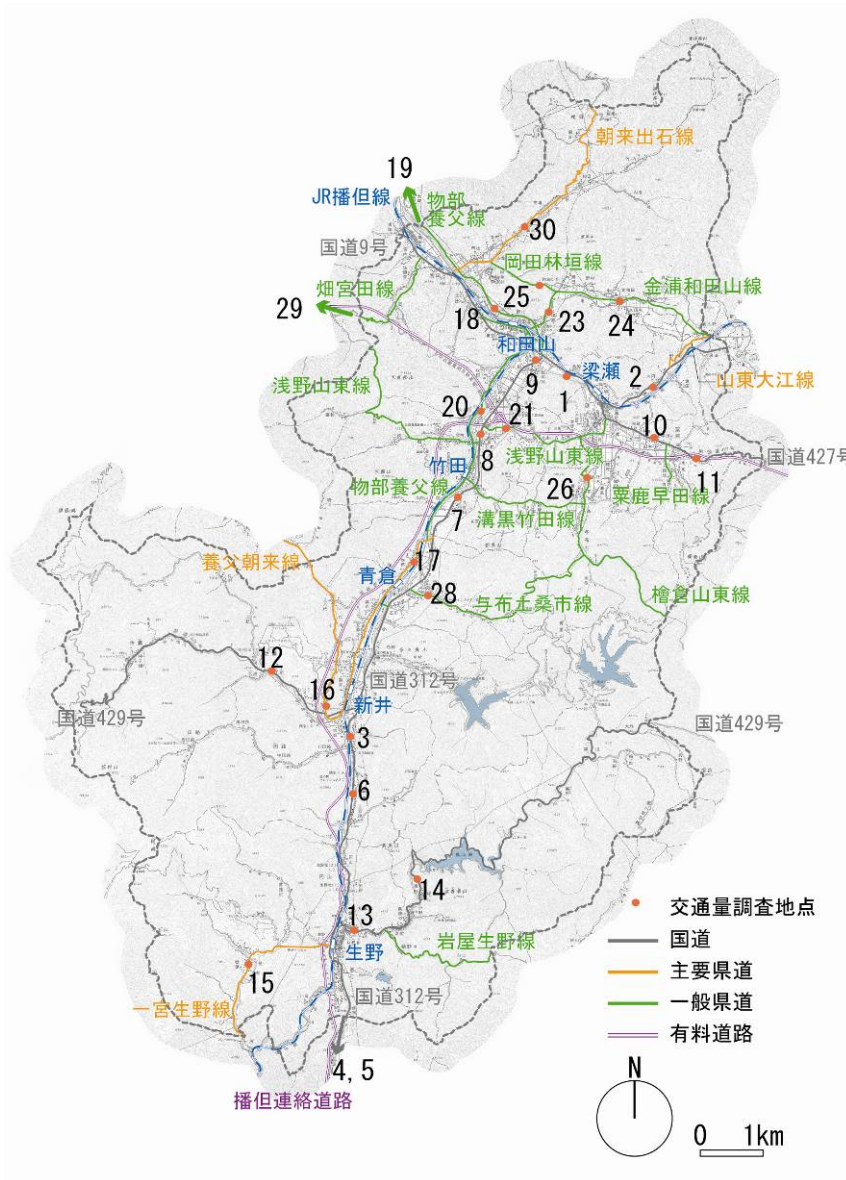
| 番号 | 路線名 | 区画番号 | 観測地点 | 平日12時間交通 | | | H22/H11 増減率 |
|----|-------------------------|-------|----------------|----------|-------|-------|----------------|
| | | | | 平成11年 | 平成17年 | 平成22年 | |
| 1 | 一般国道9号 | 1030 | 兵庫県朝来市和田山町桑原 | 13315 | 13551 | 12468 | 93.6% |
| 2 | 一般国道9号 | 31030 | 兵庫県朝来市山東町大内305 | 7114 | 6948 | 5898 | 82.9% |
| 3 | 一般国道312号 | 11155 | 朝来市羽瀨 | 10571 | 6360 | 6191 | 58.6% |
| 4 | 一般国道312号 | 11156 | 神崎郡神崎町猪篠 | 10571 | 6360 | 5234 | 49.5% |
| 5 | 一般国道312号 | 1155 | 神崎郡神崎町猪篠 | — | 4550 | 3183 | — |
| 6 | 一般国道312号 | 1154 | 朝来市岩津 | — | 3946 | 3946 | — |
| 7 | 一般国道312号 | 1153 | 朝来市和田山町久世田 | — | 3384 | 2485 | — |
| 8 | 一般国道312号 | 11153 | 朝来市和田山町竹田 | 15552 | 11484 | 9681 | 62.2% |
| 9 | 一般国道312号 | 1152 | 朝来市和田山町枚田岡※1 | 15552 | 15011 | 14305 | 92.0% |
| 10 | 一般国道427号 | 1194 | 朝来市山東町上早田 | 3811 | 5811 | 2974 | 78.0% |
| 11 | 一般国道427号 (北近畿豊岡自動車道) | 1193 | 朝来市山東町柴 | — | 1848 | 4829 | — |
| 12 | 一般国道429号 | 1201 | 朝来市土肥 | 961 | 896 | 1207 | 125.6% |
| 13 | 一般国道429号 | 1202 | 朝来市生野町口銀谷 | 4655 | 3598 | 3104 | 66.7% |
| 14 | 一般国道429号 | 1203 | 朝来市生野町竹原野 | 332 | 305 | 165 | 49.7% |
| 15 | 一宮生野線 | 4124 | 朝来市生野町栃原※1 | 1601 | 1411 | 1387 | 86.6% |
| 16 | 養父朝来線 | 4181 | 朝来市口八代※1 | 1249 | 1030 | 1013 | 81.1% |
| 17 | 養父朝来線 | 4182 | 朝来市物部※1 | 3068 | 2262 | 2133 | 69.5% |
| 18 | 物部養父線 | 6004 | 朝来市和田山町寺谷 | 11882 | 12963 | 11796 | 99.3% |
| 19 | 物部養父線 | 6005 | 養父市口米地※1 | 10194 | 11881 | 11322 | 111.1% |
| 20 | 物部養父線 | 6003 | 朝来市和田山町久留引 | 4197 | 5075 | 2966 | 70.7% |
| 21 | 浅野山東線 | 6033 | 朝来市和田山町加都※1 | 3371 | 3356 | 3300 | 97.9% |
| 22 | 浅野山東線 | 46009 | 朝来市※2 | 813 | 507 | 499 | 61.4% |
| 23 | 金浦和田山線 | 66106 | 朝来市和田山町柳原 | 2460 | 2512 | 2821 | 114.7% |
| 24 | 金浦和田山線 | 46078 | 朝来市和田山町東和田 | 1592 | 2316 | 1632 | 102.5% |
| 25 | 岡田林垣線 | 66107 | 朝来市和田山町弥生が丘 | 1592 | 1623 | 1981 | 124.4% |
| 26 | 檜倉山東線 | 6109 | 朝来市山東町諏訪 | 940 | 1165 | 261 | 27.8% |
| 27 | 溝黒竹田線 | 66110 | 朝来市和田山町竹田 | 2313 | 2358 | 1879 | 81.2% |
| 28 | 与布土桑市線 | 6289 | 朝来市伊由市場※1 | 750 | 901 | 886 | 118.1% |
| 29 | 畑宮田線 | 46182 | 養父市畑 | 1592 | 513 | 142 | 8.9% |
| 30 | 和田山出石線 | 64034 | 朝来市和田山町高生田 | 1710 | 1657 | 1272 | 74.4% |

※1 平成22年調査における観測地点が不明であるため、平成17年の観測地点を表記している

※2 平成17年、平成22年のいずれの調査においても観測地点が不明である

(平成22年道路交通センサス)

道路体系と交通量の調査地点位置



② 鉄道

JR 山陰本線が大阪から豊岡までを結んでおり、播但線は和田山を起点として姫路へとつながっている。JR 山陰本線の駅としては、和田山、梁瀬の2駅であり、播但線は結節駅の和田山のほかに、竹田、青倉、新井、生野の4駅である。山陰本線における特急停車駅は和田山駅のみで、頻度は1時間に1~2本程度である。播但線では和田山駅及び生野駅の2駅で、最大で1時間に1本となっている。

平成22年の市内の駅における乗客数の合計は590,670人である。最も多いのは和田山駅の271,445人で、市全体の46.0%を占める。次に多いのは生野駅で、131,641人で22.3%となっている。

乗客数は、いずれの駅においても横ばいから減少傾向にある。

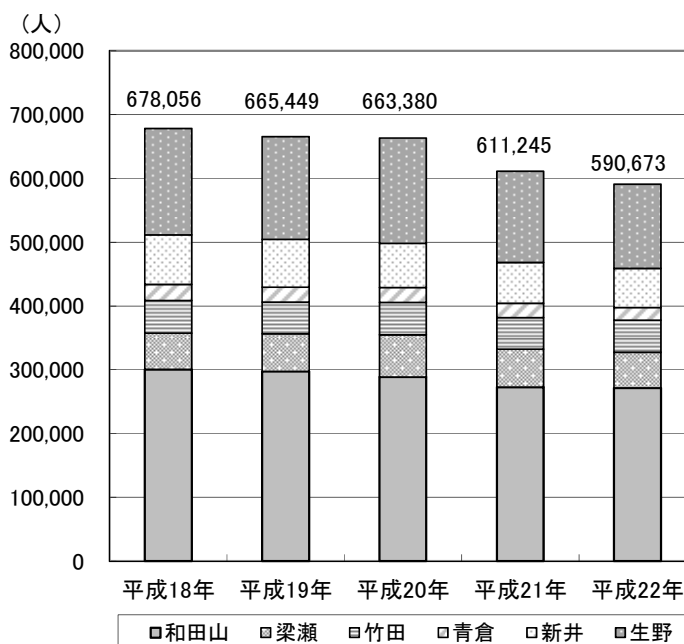
乗客数の推移

(人)

| 路線名 | 駅名 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 年平均 | 日平均 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|---------------|-----------|---------|
| 山陰本線 | 和田山 | 300,452 | 297,399 | 288,608 | 272,519 | 271,445 (46%) | 286,084.6 | 783.8 |
| | 梁瀬 | 56,751 | 59,156 | 66,143 | 59,400 | 55,700 (9%) | 59,430.0 | 162.8 |
| 播但線 | 竹田 | 51,511 | 49,254 | 50,600 | 49,801 | 50,407 (9%) | 50,314.6 | 137.8 |
| | 青倉 | 24,736 | 23,316 | 23,308 | 22,449 | 19,849 (3%) | 22,731.6 | 62.3 |
| | 新井 | 77,838 | 75,071 | 69,434 | 64,080 | 61,631 (10%) | 69,610.8 | 190.7 |
| | 生野 | 166,768 | 161,253 | 165,287 | 142,996 | 131,641 (22%) | 153,589.0 | 420.8 |
| 計 | | 678,056 | 665,449 | 663,380 | 611,245 | 590,673 | 641,760.6 | 1,758.2 |
| 前年比 | | - | -1.9% | -0.3% | -7.9% | -3.4% | | |

※日平均は、年平均を365で除した値

※()は平成22年乗客数の全駅合計に占める割合 (JR西日本)



乗客数の推移

③バス

和田山地区に停車する高速バスとしては、城崎温泉や浜坂・湯村と大阪や神戸をつなぐ路線がある。全但バス株式会社により運行されており、それぞれ所要時間は3時間半程度で、本数は一日2～3便程度である。

路線バス、コミュニティバスが、全但バス及び神姫グリーンバスによって運行されている。平成23年現在、路線バスの路線は17、コミュニティバスは11となっている。

平成22年における路線バスの輸送人員は228,074人、コミュニティバスは21,844人となっている。

路線バスの輸送人員の推移は、横ばいの傾向にある。

路線バス・コミュニティバスの路線別輸送人員 (人)

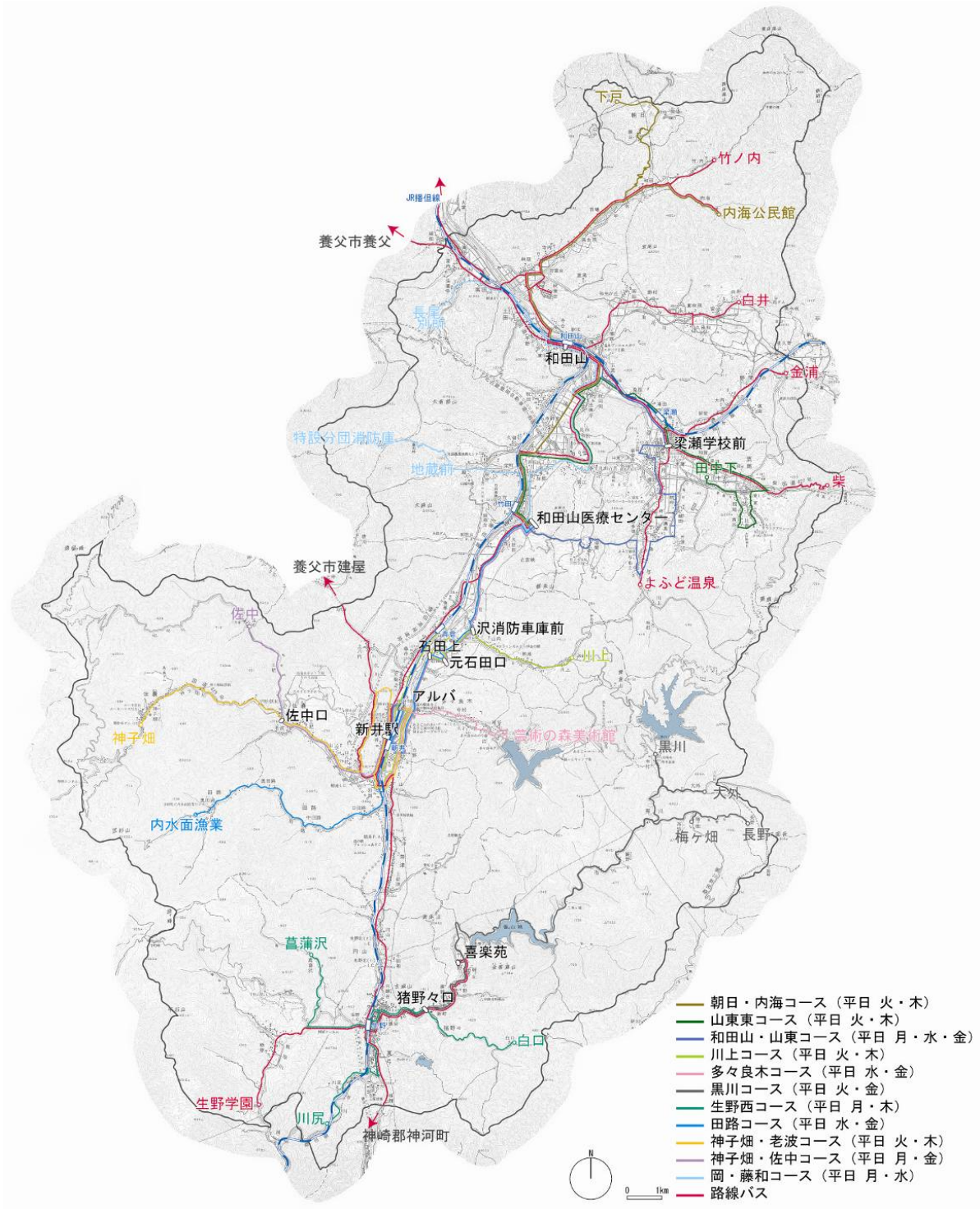
| No | 運行者 | 運行系統名 | H20 | H21 | H22 | H23 |
|------------|----------|---------------|---------|---------|---------|-------|
| 1 | 全但バス | 和田山・山東 | — | 4,116 | 4,439 | 1,239 |
| 2 | 全但バス | 山東東 | — | 3,416 | 3,351 | 1,005 |
| 3 | 全但バス | 朝日・内海 | — | 2,972 | 3,097 | 935 |
| 4 | 全但バス | 岡・藤和 | — | 2,731 | 3,049 | 774 |
| 5 | 全但バス | 川上 | — | 364 | 282 | 76 |
| 6 | 全但バス | 神子畑・老波 | — | 469 | 297 | 104 |
| 7 | 全但バス | 田路 | — | 1,715 | 1,756 | 506 |
| 8 | 全但バス | 多々良木 | — | 1,289 | 1,290 | 371 |
| 9 | 全但バス | 神子畑・佐中 | — | 2,311 | 2,568 | 706 |
| 10 | 神姫グリーンバス | デマンド黒川 | — | 1,134 | 1,301 | 246 |
| 11 | 神姫グリーンバス | デマンド生野西 | — | 536 | 414 | 94 |
| アコバス 計 | | | | 21,053 | 21,844 | 6,056 |
| 1 | 神姫グリーンバス | 粟賀生野駅線 | 32,831 | 21,922 | 21,770 | |
| 2 | 神姫グリーンバス | 新野駅喜楽苑線 | 47,383 | 34,877 | 35,310 | |
| 3 | 神姫グリーンバス | 生野駅生野学園線 | 2,649 | 1,726 | 1,381 | |
| 4 | 神姫グリーンバス | 生野駅喜楽苑線 | 2,572 | 8,825 | 10,655 | |
| 5 | 神姫グリーンバス | 黒川線 | — | 1,820 | 2,862 | |
| 神姫グリーンバス 計 | | | 85,435 | 69,170 | 71,978 | |
| 6 | 全但バス | 八鹿和田山線 | 6,351 | 7,852 | 4,343 | |
| 7 | 全但バス | 竹ノ内与布土線 | 2,315 | 14,332 | 12,100 | |
| 8 | 全但バス | 八鹿建屋線 | 14,701 | 12,822 | 12,236 | |
| 9 | 全但バス | 中央公園八鹿線 | 14,262 | 17,515 | 18,632 | |
| 10 | 全但バス | 生野本線 | 14,297 | 12,736 | 6,563 | |
| 11 | 全但バス | 和田山駅生野本線 | 5,923 | 6,858 | 3,762 | |
| 12 | 全但バス | 山口本線 | 48,553 | 47,942 | 46,952 | |
| 13 | 全但バス | 竹ノ内与布土線(休止代替) | — | 21,141 | 18,946 | |
| 14 | 全但バス | 白井病院線(休止代替) | 9,915 | 10,786 | 10,428 | |
| 15 | 全但バス | 柴線(休止代替) | — | 4,027 | 2,984 | |
| 16 | 全但バス | 金浦線(休止代替) | 2,305 | 4,358 | 4,146 | |
| 17 | 全但バス | 新井井坪線 | 15,631 | 11,147 | 15,004 | |
| 18 | 全但バス | 沢線 | 1,077 | — | — | |
| 19 | 全但バス | 竹ノ内白井線 | 3,671 | — | — | |
| 20 | 全但バス | 竹ノ内病院本線 | 7,833 | — | — | |
| 全但バス 計 | | | 146,834 | 171,516 | 156,096 | |
| 路線バス 計 | | | 232,269 | 240,686 | 228,074 | |
| 朝来市 総計 | | | 232,269 | 261,739 | 249,918 | |

※アコバスの集計期間は、1/1～12/31。平成23年度の数値は、1/1～4/10のもの

※表中の18～20番の路線は、H20年10月より休止

(市資料)

路線バス・コミュニティバスの路線



④上下水道

給水普及率は 99.0% で、ほぼ全戸に給水している。

生活排水処理率は 100% で、整備は完了している。

給水普及率、生活排水処理率、下水道接続率

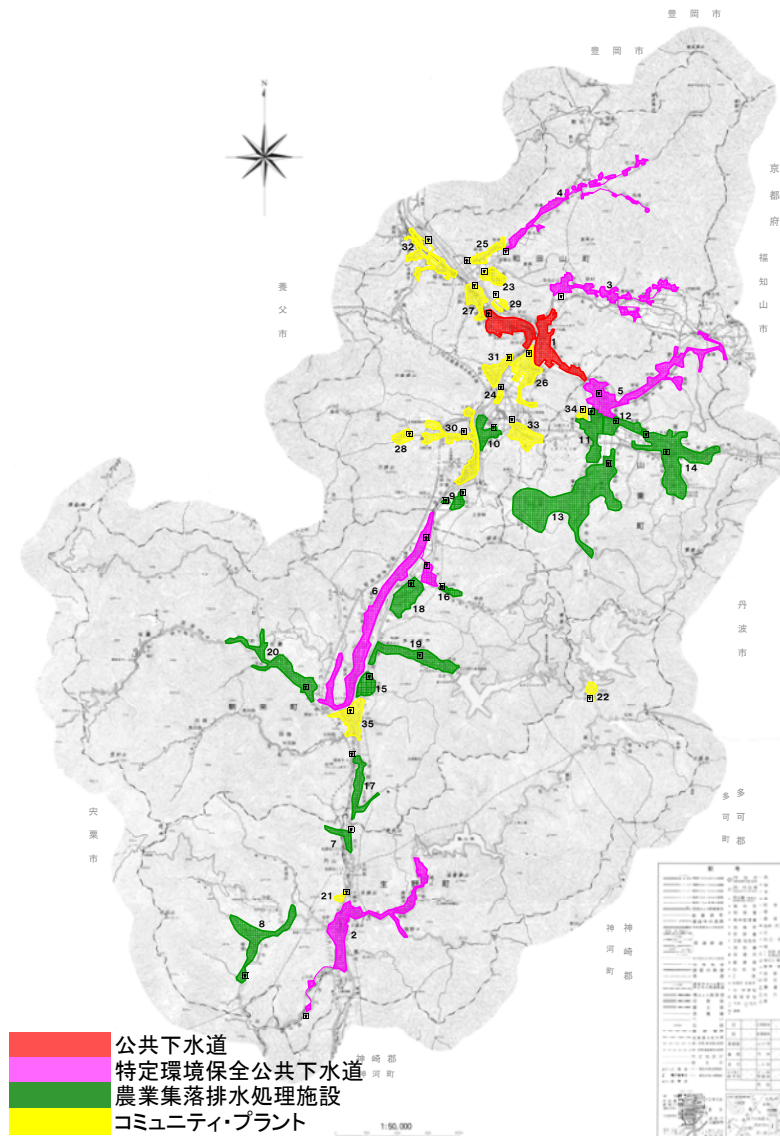
| | 給水普及率 (%) | 生活排水処理率 (%) | 水洗化率 (%) |
|-----|--------------|----------------|-------------|
| 朝来市 | 99.0 | 100.0 | 93.1 |

※生活排水処理率は、公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水処理施設、コミュニティプラント及び浄化槽による処理人口を、本市人口で除した値。

※給水普及率は平成 18 年、水洗化率は平成 23 年（市資料）

※生活排水処理率は平成 22 年（兵庫県資料）

生活排水処理計画図



⑤ その他施設

谷筋に沿って、公共公益施設が分布している。

各地域の庁舎には、市の機能が分散して配置されている。

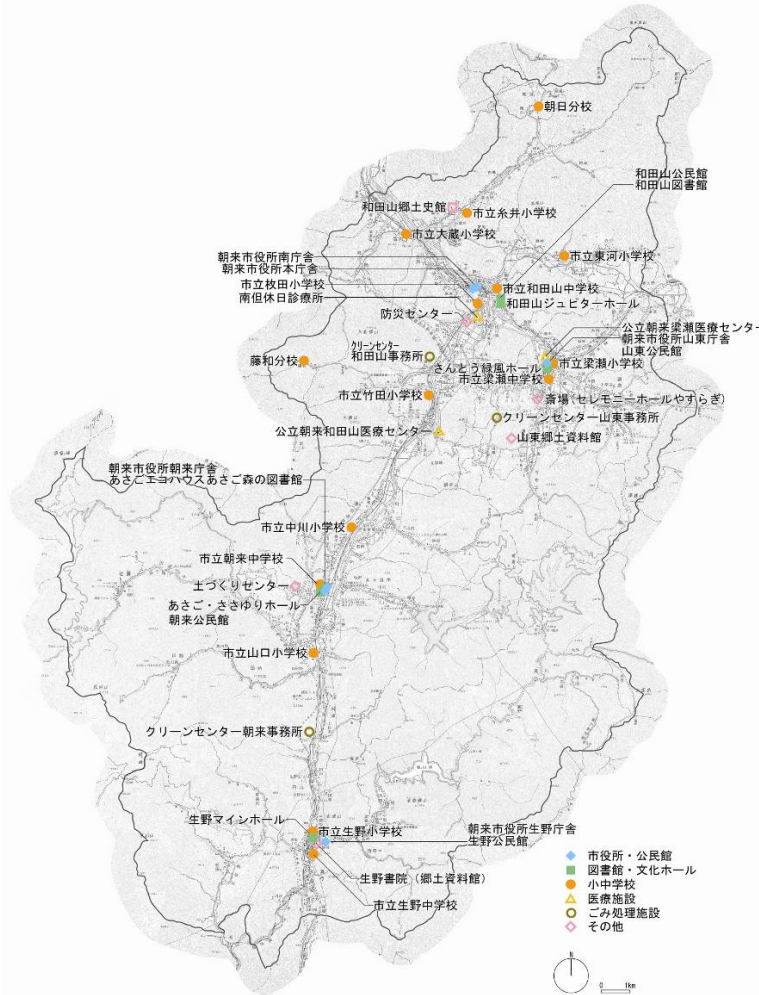
市民ホールは各地域にそれぞれ分布し、図書館は和田山、朝来地域に立地している。

円山川の支流が形成する谷筋の奥に立地している小学校には、休校中のものもある。

医療施設は、和田山地域、山東地域に集中している。

主な公共・公益施設

| 市庁舎、公民館 | 小中学校 | 医療施設 |
|-------------|-----------|------------------|
| 朝来市役所本庁舎 | 生野小学校 | 公立朝来和田山医療センター |
| 朝来市役所南庁舎 | 系井小学校 | 公立朝来梁瀬医療センター |
| 和田山公民館 | 朝日分校(休校中) | 南但休日診療所 |
| 朝来市役所山東庁舎 | 大蔵小学校 | ごみ処理施設 |
| 山東公民館 | 枚田小学校 | クリーンセンター和田山事業所 |
| 朝来市役所朝来庁舎 | 東河小学校 | クリーンセンター朝来事業所 |
| 朝来公民館 | 竹田小学校 | クリーンセンター山東事業所 |
| 朝来市役所生野庁舎 | 藤和分校(休校) | その他 |
| 生野公民館 | 梁瀬小学校 | 和田山郷土歴史館 |
| 図書館、文化ホール | 中川小学校 | 山東郷土資料館 |
| 和田山ジュピターホール | 山口小学校 | 生野書院 |
| 和田山図書館 | 生野中学校 | 防災センター |
| さんとう緑風ホール | 和田山中学校 | 斎場(セレモニーホールやすらぎ) |
| あさご森の図書館 | 梁瀬中学校 | 土づくりセンター |
| あさご・ささゆりホール | 朝来中学校 | |
| 生野メインホール | | |



5) 開発

① 開発行為

3,000 平方メートル以上の開発行為に関する許可申請は、平成 18 年以降、3 件であった。

朝来市開発行為許可申請件数

| | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|---------------------|----------|----------|------|------|-----------|
| 件数 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 面積(m ²) | 9,576.29 | 9,046.88 | 0.00 | 0.00 | 83,187.15 |

(市資料 平成 23 年 11 月現在)

② 農地転用

平成 18 年から 21 年の 4 年間に於ける、農地転用の件数は合計 243 件、面積は約 95,500 m²であった。

転用理由の内訳で件数が多いのは、宅地ならびに車庫・露店系用地への転用である。

地域別にみると、和田山町において転用の 5 割以上が行われており、また一件当たりの面積規模も約 480 m²と大きい。生野町では、転用の件数が最も少なくなっている。

農地法に基づく転用状況

| | | 転用事由 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|----------|---------------------|----|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|----------|---------------------|-----|---------------------|----|---------------------|-----|---------------------|
| | | 公共公益施設用地 | | 宅地 | | 店舗用地 | | 工場用地 | | 車庫・露店系用地 | | その他 | | 不明 | | 総計 | |
| | | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) | 件数 | 面積(m ²) |
| 年度別 | 平成18年 | | | 10 | 5,029 | | | 1 | 822 | 16 | 4,607 | | | 7 | 974 | 34 | 11,432 |
| | 平成19年 | 3 | 1,731 | 22 | 9,974 | 3 | 2,528 | | | 29 | 14,691 | 1 | 115 | 36 | 17,464 | 94 | 46,503 |
| | 平成20年 | 3 | 860 | 19 | 10,387 | 1 | 181 | 1 | 405 | 20 | 7,476 | | | 13 | 1,399 | 57 | 20,708 |
| | 平成21年 | 1 | 804 | 21 | 8,276 | 1 | 942 | 2 | 1,036 | 20 | 5,023 | 1 | 128 | 12 | 679 | 58 | 16,888 |
| 地域別 | 生野町 | | | 3 | 923 | | | | | 2 | 588 | | | 1 | 248 | 6 | 1,759 |
| | 和田山町 | 2 | 303 | 34 | 17,057 | 4 | 3,212 | 4 | 2,263 | 33 | 14,672 | 2 | 243 | 28 | 13,396 | 107 | 51,146 |
| | 山東町 | 4 | 2,288 | 17 | 6,498 | 1 | 439 | | | 24 | 9,115 | | | 16 | 1,757 | 62 | 20,097 |
| | 朝来町 | 1 | 804 | 18 | 9,188 | | | | | 26 | 7,422 | | | 23 | 5,116 | 68 | 22,530 |
| | 総計 | 7 | 3,395 | 72 | 33,666 | 5 | 3,651 | 4 | 2,263 | 85 | 31,796 | 2 | 243 | 68 | 20,517 | 243 | 95,531 |

※露天系は、資材置き場・露天駐車場・庭などを含む。

(市資料)

③ 新築

平成 18 年から 22 年の 5 年間に於ける新築建物の件数は、合計 834 件となっており、年平均 167 件である。

用途の内訳で件数が多いのは、宅地系である。

地域別にみると、和田山地域で最も多く約半数の 45% を占めており、続いて朝来地域が 26% と多くなっている。

新築建物件数

| | | 住居系 | 商業系 | 工業系 | その他 | 総計 |
|-----|-------|-------|------|-----|------|--------------|
| 年度別 | 平成18年 | 212 | 14 | 6 | 2 | 234 |
| | 平成19年 | 223 | 16 | 9 | 5 | 253 |
| | 平成20年 | 180 | 15 | 13 | 9 | 217 |
| | 平成21年 | 138 | 4 | 3 | | 145 |
| | 平成22年 | 118 | 8 | 8 | 3 | 137 |
| | 平均 | 174.2 | 11.4 | 7.8 | 4.75 | 197.2 |
| 地域別 | 生野地域 | 81 | 7 | 8 | 1 | 97 (9.8%) |
| | 和田山地域 | 407 | 31 | 23 | 15 | 476 (48.3%) |
| | 山東地域 | 170 | 10 | 3 | 1 | 184 (18.7%) |
| | 朝来地域 | 213 | 9 | 5 | 2 | 229 (23.2%) |
| | 総計 | 871 | 57 | 39 | 19 | 986 (100.0%) |

※住居系には倉庫を、その他には公共施設等を含む。

(市資料)

6) その他

①防災

災害発生時のための避難所には、合計 228 の施設が指定されている。
緊急輸送路が指定され、ヘリコプター離着陸場の適地が挙げられている。

避難所の指定状況

| | 1次避難所 | 2次避難所 | 合計 |
|-----|-------|-------|-----|
| 指定数 | 169 | 60 | 228 |

※山口小学校は1次、2次に重複して指定されている

緊急輸送路

一般緊急輸送路

| 路線名 | 起点の地名 | 終点の地名 | 区間延長(km) | 管理者名 |
|----------|-----------|------------|----------|------|
| 一般国道429号 | 朝来市立野 | 朝来市新井 | 0.4 | 兵庫県 |
| | 朝来市生野町口銀谷 | 朝来市生野町口銀谷 | 0.5 | 兵庫県 |
| (主)養父朝来線 | 朝来市新井 | 朝来市役所朝来支所前 | 1.0 | 兵庫県 |
| (一)物部養父線 | 朝来市和田山町玉置 | 養父市大藪 | 10.0 | 兵庫県 |
| | 朝来市和田山町玉置 | 朝来市役所前 | 0.8 | 兵庫県 |

幹線緊急輸送路

(高速)

| 路線名 | 起点の地名 | 終点の地名 | 区間延長(km) | 管理者名 |
|--------|----------|----------|----------|---------|
| 播但連絡道路 | 朝来市生野町円山 | 姫路市の形町の形 | 48.2 | 兵庫県道路公社 |
| 遠阪トンネル | 丹波市青垣町遠阪 | 朝来市山東町柴 | 4.7 | 兵庫県道路公社 |

幹線緊急輸送路

(平面)

| 路線名 | 起点の地名 | 終点の地名 | 区間延長(km) | 管理者名 |
|----------|-----------|---------------|----------|------|
| 一般国道9号 | 朝来市山東町金浦 | 美方郡新温泉町千谷(県境) | 71.9 | 直轄 |
| 一般国道312号 | 朝来市和田山町玉置 | 姫路市市川橋通2丁目 | 63.3 | 兵庫県 |
| 一般国道427号 | 朝来市山東町柴 | 朝来市山東町大垣 | 4.2 | 兵庫県 |

ヘリコプター臨時

離着陸場適地

| 名称 | 所在地 |
|-----------------|-----------------------|
| 朝来市八王子グラウンド | 生野町口銀谷北八王子2389番外3筆併合地 |
| 朝来市栃原運動広場 | 生野町栃原字東タキゴ1699 |
| 三菱マテリアル工場内グラウンド | 生野町口銀谷985-1 |
| 朝来市筒江農村広場 | 和田山町筒江字長尾100 |
| 朝来市寺内すこやかひろば | 和田山町寺内561 |
| 朝来市磯部農村広場 | 山東町野間956 |
| 朝来市山東農村広場 | 山東町粟鹿147-2 |
| 朝来市朝来グラウンド | 立脇20-1 |
| ㈱トリーカ兵庫工場 | 立野145 |

(地域防災計画)

② 景観

東と西の両側に粟鹿山や笠杉山などの 1,000m 級の山々が屹立し、その合間の谷地を円山川がゆったりと北流し、南北の景観軸が形成されている。円山川沿いに分布する平地からの景観は、背景として映りこむ山並みが占める割合が大きく、中景、近景としての農地の緑と集落が調和している。またその田園景観も、山からの水の流れにより集落が立地したものであり、山が独特の景観を形成してきたと言える。円山川沿いを走る国道 312 号沿道では、山並みと川に囲まれた田園景観が味わえる。

山間部では、夜久野高原や生野高原、さのう高原などの高原景観も見られる。また、市川、多々良木川などの河川の源流点につくられたロックフィルダムや、その他の人工湖は、山中において意外性を持った空間を形成していると共に、湖面に四季折々の自然を写しこんでいる。

産業と結びついた景観として、生野鉱山を中心として栄えた、口銀谷の鉱山町特有の町並みが現在も残っている。竹田城跡周辺には、城下町特有の町割りと、宿場町としての町並みを併せ持つ竹田地区の景観がある。市内には古くから生野街道及び山陰街道がとおり、矢名瀬町をはじめ街道町の面影が残る町並みも点在する。

和田山などの市街地においては、鉄道駅前の商業集積などの市街地景観が見られる。

景観形成に関わる行政施策として、兵庫県の景観の形成等に関する条例に基づき、県が国道 312 号沿道において広域的な景観形成を図っているほか、重点的に景観形成を図る地区として、口銀谷地区、竹田地区が歴史的景観形成地区に指定されている。口銀谷地区、竹田地区及び和田山駅前地区では、街なみ環境整備事業が実施されており、ゆとりと潤いのある景観形成のための事業が実施されている。

一方で、市民による景観を守り育てる活動も盛んに行われている。

朝来市では平成 23 年度に景観行政団体に移行し、魅力ある景観を活かしたまちづくりをよりいっそう進めるべく景観計画及び景観条例の制定作業を進めている。



1,000m 級の山々



円山川



田園風景



多々良木ダム



竹田の町並み



和田山駅前のにぎわい

景観の形成等に関する条例による地区指定状況

| 種類 | 指定地区 指定年月日 | 面積・道路 延長など | 景観形成の基本方針 |
|-------------------|-------------------------------------|---------------|--------------------------------|
| 歴史的景 観形成地 区 | 生野町口銀谷地区 H10.3.26 | 約 170ha | 鉱山町の特徴と山際の緑を生かした景観形 成 |
| | 和田山町竹田地区歴 史的景観形成地区 H10.11.27 | 約 120ha | 完存する山城遺構としての竹田城を中心とし た景観形成 |
| 沿道景観 形成地区 | 国道 312 号沿道地区沿 道景観形成地区 H18.4.1 | 約 70km | 但馬の歴史・風土を活かした、物語のある沿 道景観づくり |

③観光・交流・レクリエーション資源

糸井溪谷や黒川溪谷などの溪谷や、立雲峡などの地形を活かした見どころがある。

茶すり山古墳、竹田城跡や生野銀山、神子畑選鉱所跡を始めとする豊富な歴史資源を有し、全国から観光客が多く訪れる。生野鉱山跡及び神子畑鉱山跡は、「鉱石の道」のルートに指定されているほか、生野鉱山跡から飾磨港までの約 49km は「銀の馬車道」として播磨地域南北交流のシンボルに位置づけられるなど、地域外との交流も推進されている。

自然を堪能できるキャンプ場や自然学校施設のほか、パラグライダーも体験できる「スカイビラさのう」など、雄大な自然を楽しめる施設が整備されている。

農産物直売所を併設したアクセス性の高い道の駅「フレッシュ朝来」や「但馬のまほろば」は、来訪者との交流の拠点となっている。

(4) 法規制

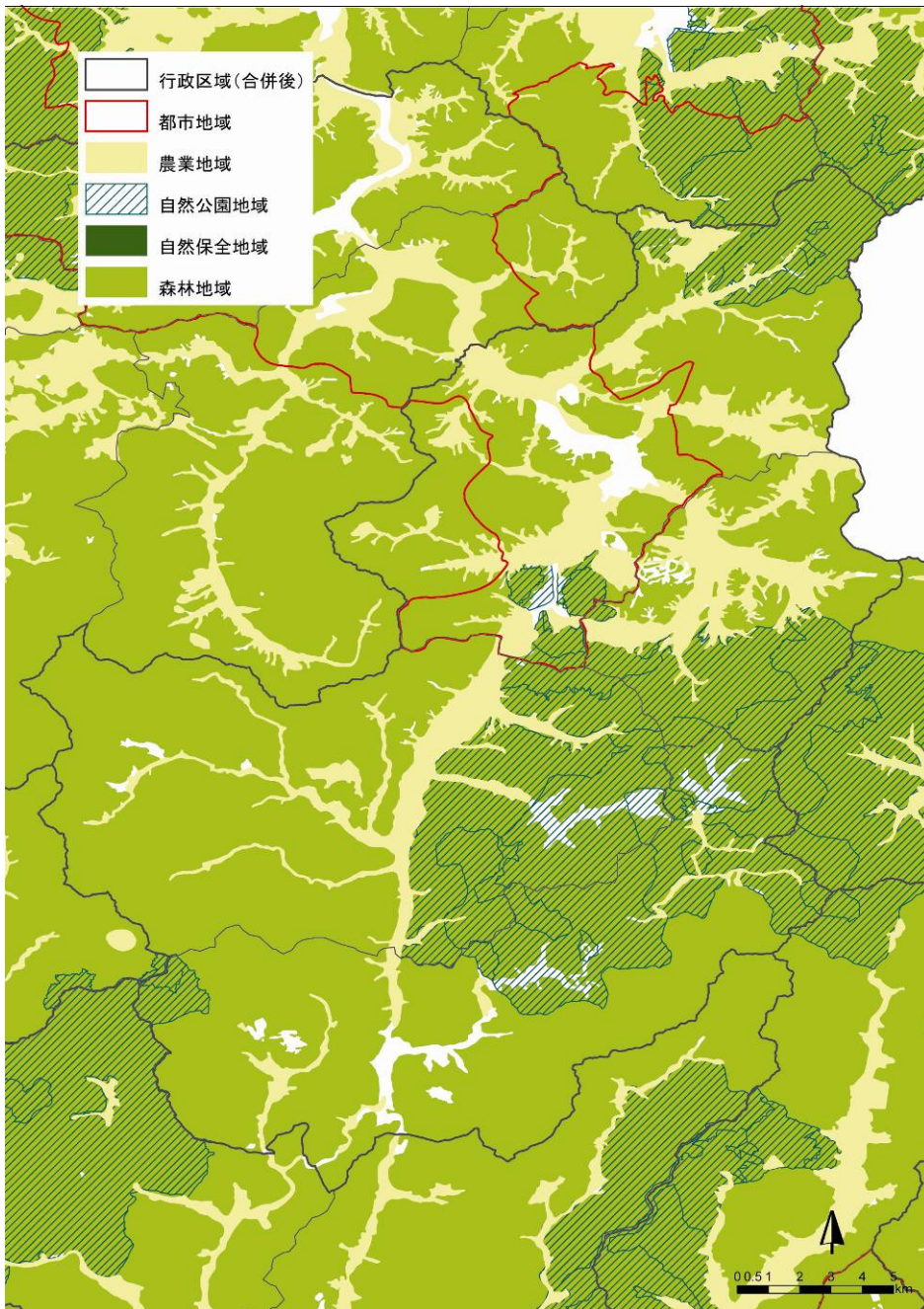
都市地域のほかに、農業振興地域、自然公園地域に指定されている。自然公園地域は市域の約4分の1を占めている。

法規制状況

| 都市地域 | 農業地域 | 自然公園地域 | 自然保全地域 | 森林地域 | 総面積 |
|-------|-------|--------|--------|-----------|--------|
| 4,934 | 2,104 | 10,333 | 0 | 33,183.80 | 40,298 |
| 12.2 | 5.2 | 25.6 | 0 | 82.3 | 100 |

上段：指定面積(ha)、下段：市域の面積に対する割合(%)

(兵庫県及び市資料)



(環境省 GIS)

(5) 都市計画

① 都市計画区域

和田山都市計画区域に、和田山地域の一部が指定されており、その面積は約 5,000ha である。

都市計画区域の指定状況

| 区 域 名 | 区域面積 (ha) | 指定状況 |
|-----------|-----------|-----------------|
| 和田山都市計画区域 | 4,934 | 平成 9 年 11 月 4 日 |
| 計 | 4,934 | |

都市計画区域



②都市計画・関連事業

都市計画区域内では、道路や下水道、市街地開発、公園、河川、語彙処理施設事業が実施されている。

関連する事業として、和田山駅周辺や竹田城周辺、生野銀山周辺において、まちづくり交付金事業や街なみ環境整備事業を始めとする事業が行われている。

用途地域(平成 24 年 3 月末現在)

| 区 域 名 | 合計面積 (ha) | 指定日 |
|-------|--------------|-----------------|
| 用途地域 | 274.6 | 平成 13 年 1 月 9 日 |

都市計画道路の整備状況(平成 24 年 1 月末現在)

| 種別 | 番号 | 路線名 | 代表 幅員(m) | 計画延長 (m) | 改良延長 (m) | 概成済 延長(m) | 整備率 (%) |
|---------|---------|---------------|-------------|-------------|-------------|--------------|------------|
| 自動車専用道路 | 1.3.2 | 北近畿豊岡 自動車道 | 22 | 5,550 | 0 | 0 | 0 |
| 幹線街路 | 3.5.4 | 国道 9 号線 | 15 | 3,270 | — | 3,270 | 100 |
| 〃 | 3.3.5 | 国道 312 号線 | 29 | 3,020 | 0 | 0 | 0 |
| 〃 | 3.5.323 | 円山川右岸線 | 12 | 930 | — | 930 | 100 |
| 〃 | 3.3.321 | 東谷寺谷線 | 23 | 500 | 330 | 0 | 66 |
| 〃 | 3.5.320 | 駅南線 | 14 | 1,290 | 920 | 0 | 71 |
| 〃 | 3.5.322 | 駅北線 | 12 | 1,710 | 1,710 | 0 | 100 |

都市計画下水道(平成 24 年 3 月末現在)

| 名称 | 処理区域名称 | 計画面積 (ha) | 整備率 (%) |
|-----------|--------|--------------|------------|
| 和田山町公共下水道 | 和田山処理区 | 251 | 74 |

市街地開発事業(平成 24 年 3 月末現在)

| 種別 | 名称 | 施行者 | 面積 (ha) | 施行開始 年度 | 施行状況 |
|----------|-------|-----|------------|------------|------|
| 土地区画整理事業 | 和田山駅北 | 組合 | 12.4 | H3 | 施行済 |
| 土地区画整理事業 | 和田山駅南 | 組合 | 12.4 | H11 | 施行中 |

都市計画公園(平成 24 年 3 月末現在)

| 区分 | 名称 | 計画面積 (ha) | 供用面積 (ha) |
|------|----------|--------------|--------------|
| 街区公園 | 駅北 1 号公園 | 0.17 | 0.17 |
| 街区公園 | 駅北 2 号公園 | 0.22 | 0.22 |
| 街区公園 | 駅南 1 号公園 | 0.22 | — |
| 街区公園 | 駅南 2 号公園 | 0.16 | — |

都市計画河川(平成 24 年 3 月末現在)

| 河川名 | 区域 | | 改修済 | |
|------|------|-------|------|-------|
| | 幅員 | 延長 | 幅員 | 延長 |
| 恵谷川 | 5.4m | 0.1km | 5.4m | 0.1km |
| 和田山川 | 5.2m | 0.4km | 5.2m | 0.4km |

ごみ処理施設(平成 24 年 3 月末現在)

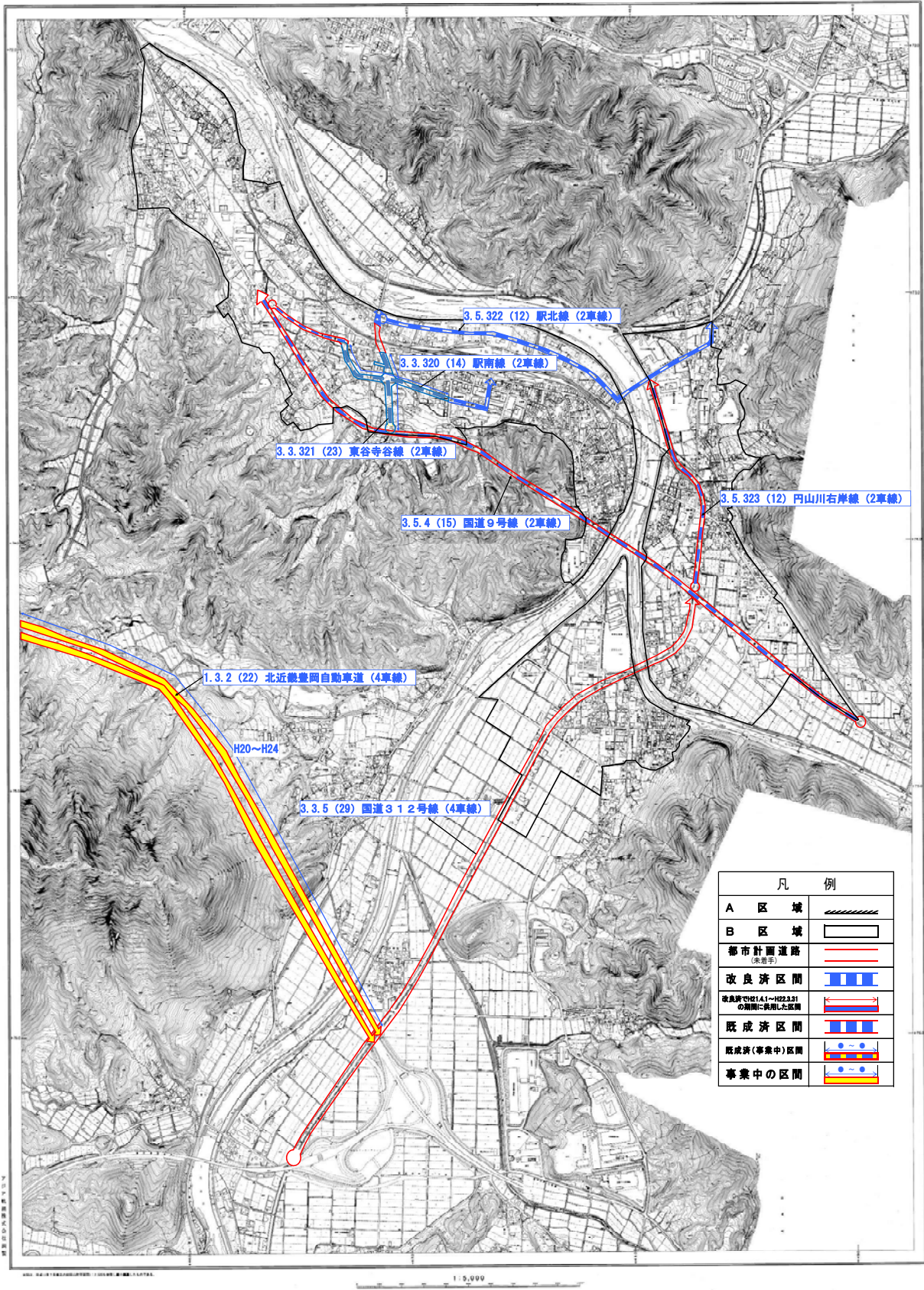
| 名称 | 計画 | | | 供用 |
|--------------|--------|---------------|---------------|---------------|
| | 面積(ha) | 施設名 | 処理能力 (t/日) | 処理能力 (t/日) |
| 南但ごみ 処理施設 | 3.1 | バイオマス 施設 | 36 | — |
| | | 熱回収施設 | 43 | — |
| | | リサイクル センター | 17 | — |

関連事業一覧(平成 24 年 3 月末現在)

| 事業名 | 事業区域 |
|-----------------------|---------|
| まちづくり交付金事業 | 和田山駅前地区 |
| | 山東柿坪地区 |
| | 竹田地区 |
| 街なみ環境整備事業 | 竹田地区 |
| | 口銀谷地区 |
| | 和田山駅前地区 |
| 生野鉱山と鉱山まちの 文化的景観事業 | |
| 新市街地形成推進事業 | 枚田地区 |
| 竹田城跡保存活用計画 | |

※ 複数の地区にまたがる所在地の場合は、地域名のみ表示

都市計画道路整備現況図



(平成 24 年 1 月末現在)

関連事業の事業区域図



第2章 上位関連計画

(1) 上位計画

①兵庫県広域都市計画基本方針-但馬地域編（平成20年5月）

兵庫県では、都市計画区域ごとに都市計画区域マスタープランを策定しているが、これは当該都市計画区域内に限定したものであるため、複数の都市計画区域や都市計画区域内外にわたる課題への対応には限界がある。また、昨今の市町合併による行政区域が広域化したことによる対応も求められている。

そのため、広域的な観点から都市や地域の構造再編を捉えていくため、平成19年には、都市計画区域マスタープラン等の見直し基本方針が策定され、広域的な見地から都市計画の課題、目標、基本的な方針などを示す広域都市計画基本方針の策定の必要性が明示され、平成19年度に、兵庫県の7地域（神戸、阪神、東播磨、西播磨、丹波、但馬、淡路）ごとに広域都市計画基本方針の策定が行われている。

【広域的な都市づくりの目標】

豊かな自然と共生し、多彩な観光資源を生かした交流都市づくり

但馬地域は兵庫県の最北部にあり、中国山地・円山川・日本海などの豊かな自然の中で暮らしが営まれ、温泉、古いまちなみや鉱山跡等の歴史文化遺産、スキー場等のレクリエーション拠点、カニ等の特産物などの多彩な観光資源を有している。こうした地域の特性を生かし、コウノトリの野生復帰事業などに代表される豊かな自然と共生し交流を育む都市づくりを目指す。

【個別方針】

1 都市の拠点形成・配置及び都市機能の連携・分担の方針

(1) 各都市拠点の特性を生かした都市機能の充実

- 和田山を都市拠点として、商業・産業・教育・医療・福祉機能等の充実、高速道路、国道、鉄道等の結節点としての交通結節機能の強化

(2) 各都市拠点の広域的な機能連携の強化

- 北近畿豊岡自動車道の整備や鳥取豊岡宮津自動車道の整備に伴う、播但連絡道路も含めた、各拠点を南北・東西に結ぶ交通道路網が確立することによる、観光や交流を軸とした広域的な連携、新温泉町方面と朝来市方面を結ぶ東西方向の連携強化
- 合併前の旧町役場周辺における、生活中心としての機能を相互に、あるいは都市拠点とも連携させることによる、身近な暮らしを支える商業・教育

等の生活関連機能の役割分担

2 広域ネットワークの形成の方針

(1) 道路交通ネットワークの充実

- 地域間を連携する東西・東北方向の国道 9 号、312 号、427 号などの広域幹線道路における、暮らしを支えるインフラとしての更なる整備・充実、拠点間の接続の強化

(2) 公共交通ネットワークの維持・充実

- JR 播但線、JR 山陰本線の高速化による利便性の向上
- 既存の公共交通網（路線バス、コミュニティバス等）については、運行ルートの変更や効率化にあわせたデマンドバスの運行などの検討による、生活交通機能の充実

3 土地利用の方針

(1) 土地利用規制・誘導の方針

ア 都市計画区域及び区域区分

- 従来どおり区域区分は定めないのであることが適当

イ 緑豊かな環境形成地域及び地域の区分

- 当該区域の環境形成基準に沿った土地利用規制・誘導

ウ 関連する各種制度との連携・調整

- 都市計画法及び緑条例に基づく規制・誘導と併せて、景観条例、農振法、森林法、自然公園法・自然公園条例、環境条例・自然環境保全地域などによる規制・誘導

(2) 土地利用課題への対応方針

ア 豊かな自然や歴史・文化等と調和した持続可能な土地利用の推進

- 但馬地域の自然と商業・産業等の経済活動が調和した持続可能な土地利用
- 山林・里山や農地における適正な土地利用の誘導を通じた安全・安心の確保
- 住民や事業所等による、良好な土地利用の形成に寄与する活動への支援

イ 自然環境や地域資源を活用した交流等による但馬地域の活性化

- 歴史的なまちなみが残る竹田地区では、歴史的まちなみの保全や交流施設の整備・充実等

ウ 防災に配慮した土地利用

- 治水対策、土砂災害対策、地震対策などの防災に配慮した土地利用

エ 地域の玄関口にふさわしい土地利用や景観の形成

- 国道 9 号等の地域間の広域幹線道路について、暮らしを支えるインフラとして整備・充実を図り、拠点間の接続を強化
- 和田山インターチェンジや鉄道駅周辺における、緑条例による地域区分の運用、さらに必要に応じて用途地域の指定や地区計画等の都市計画手法の活用等により、地域の玄関口にふさわしい土地利用や景観形成

②和田山都市計画区域マスタープラン（平成 22 年 4 月）

但馬地域全体

【策定区域と目標年次】

但馬地域の都市計画区域と策定区域は次の表のとおりであり、平成 17 年（2005 年）を基準として、おおむね 20 年後の都市の姿を展望しつつ、目標年次を平成 27 年（2015 年）としたおおむね今後 10 年間の都市計画の基本的方向を定めるものとする。

| 都市計画区域名 | 構成市町名 | 都市計画区域 | 人口(千人) |
|-----------|-------|---------|--------|
| | | | ※H17 |
| 豊岡都市計画区域 | 豊岡市 | 行政区域の全域 | 89.2 |
| 浜坂都市計画区域 | 新温泉町 | 行政区域の一部 | 10.5 |
| 香住都市計画区域 | 香美町 | 行政区域の一部 | 11.0 |
| 八鹿都市計画区域 | 養父市 | 行政区域の一部 | 11.4 |
| 和田山都市計画区域 | 朝来市 | 行政区域の一部 | 14.4 |

【都市計画の目標】

○都市づくりの基本理念

都市づくりは、一人一人が地域社会の中で安全に、安心して暮らすことができ、地域への愛着をはぐくむ魅力あるまちづくりを旨として、生活者の視点に立ち、県民、事業者、県及び市町の相互の理解、信頼及び協働の下に行われなければならない。

○都市づくりの目標

- ア 生活の質を向上させる都市づくり
- イ にぎわいと活力を生み出す都市づくり
- ウ 安心して暮らせる安全な都市づくり
- エ 広域的な交流と連携の都市づくり

和田山市計画区域

【都市づくりの目標】

本都市計画区域が属する但馬地域は兵庫県の最北部にあり、中国山地・円山川・日本海などの豊かな自然の中で暮らしが営まれ、温泉、古いまちなみや鉱山跡等の歴史文化遺産、スキー場等のレクリエーション拠点、カニ等の特産物などの多彩な観光資源を有している。豊かな山林など自然環境や歴史・文化を生かして、個性豊かな都市づくりを目指す。

- ア 自然環境との共生や景観の保全に配慮した都市づくり
 - ・ 朝来群山県立自然公園等の豊かな自然との共生、美しい里山や竹田城跡など歴史・文化を生かした街なみ景観の保全など、地域の活性化と居住環境

の整備が一体となった魅力ある都市づくりを目指す。

イ 地域特性を生かした活力ある都市づくり

- ・ 自然と歴史・文化が調和した都市整備を進めるとともに、都市の機能と魅力を高め、U・I ターンを含む定住の基盤として、多様なニーズに応える住環境の創出を図る。

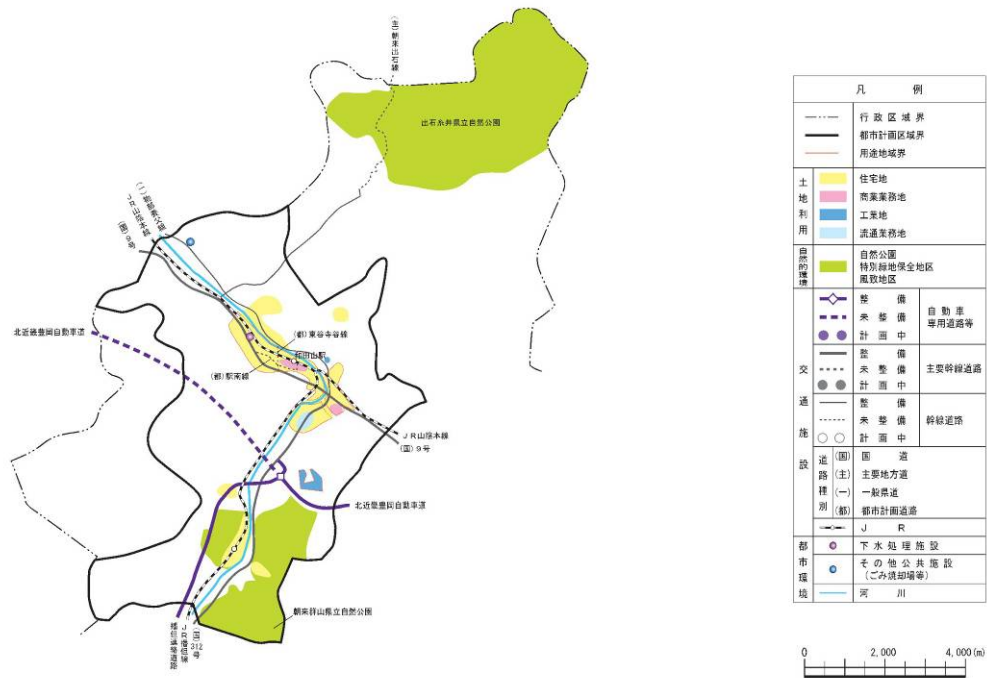
ウ 交流の活発化を促進するネットワークの形成

- ・ 但馬・山陰地方と丹波地方、播磨地方、京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝にあり、人や文化など多様な交流の活性化を促進する交通ネットワークの形成を図る。

エ 安全で安心な都市づくり

- ・ 災害による被害を最小限に抑える施策を推進し、安全で安心な都市づくりを目指す。

「和田山都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」
参考図



参考図の道路の整備状況については、平成20年3月31日現在の状況に基づいて作成しています。

方針附図

〈拠点〉

| | |
|------|--|
| 都市拠点 | JR 和田山駅から国道 9 号と国道 312 号の結節点である一本柳交差点周辺までを都市拠点とし、公共公益機能に加え商業、産業、教育、福祉などの生活利便機能を充実・強化する。 |
| 生活拠点 | 地域住民の日常の生活圏を対象として、生活に密着した都市機能が集積する市街地を生活拠点として位置付ける。 生活拠点においては、地域的なニーズに応じた、商業、業務、医療、福祉などの集積を図るとともに、地域資源を生かした個性ある都市づくりを進める。 |

| | |
|------------|---|
| 特定機能 拠点 | 広域的な圏域をもつ観光、交流等の特定の機能の立地が見られる竹田城跡を特定機能拠点として位置付ける。 特定機能拠点においては、当該特定の機能を発揮するため、施設等の整備を促進するなど機能の強化・充実を図る。 |
|------------|---|

〈連携軸〉

| | |
|-------------|---|
| 広域 連携軸 | 広域的な交流と連携を図るため、地域を越えた広域的な人の移動や物流を支える交通の軸として、北近畿豊岡自動車道、播但連絡道路、国道9号、国道312号、JR山陰本線、播但線を広域連携軸と位置付け、各地域や各都市拠点との連携の強化を図る。 |
| 地域内 連携軸 | 様々な都市機能に対する利便性の向上を図るため、地域内及び日常生活圏内の移動を支える交通の軸を地域内連携軸と位置付け、広域連携軸へのアクセス強化や各拠点間の連携を図る。 |
| 水と緑の 連携軸 | うるおいのある都市づくりを進めるため、都市を特色付ける地域全体にわたる自然的環境を水と緑の連携軸と位置付け、丘陵地の森林や円山川などを中心に水と緑のネットワークを形成する。 |

【土地利用に関する方針】

○基本方針

誰もが快適に、安全に、安心して暮らせる都市の実現に向け、既存の都市機能の活用及び強化により、既成市街地における多様な都市機能の集積を図るとともに、コンパクトな都市形成を図るための適切な土地利用の配置を図り、都市活動の機能性、持続性及び都市生活の安全性、利便性、快適性等の向上を図る。

その際には、沿道土地利用の適正な誘導を図り、既存商店街を含めた活力ある商業環境の形成など秩序ある土地利用を図る。

【主要な都市施設等の整備目標】

都市計画に関する方針を踏まえ、計画的な整備を関係機関等との調整を図りながら実施していく。

(1)都市交通に関する都市施設等の整備目標

おおむね10年以内に整備や計画の具体化を予定している主な交通施設は次のとおりである。

ア. 道路

- ・自動車専用道路

| 路線名 | 事業場所 | 概要 |
|------------------------|-------------------------|------------------------|
| 北近畿豊岡自動車道 (和田山八鹿道路) | 養父市八鹿町高柳～朝来市 和田山町市御堂 | 新設 L=約 13.7km W=22m |

- ・主要幹線道路、幹線道路

| 路線名 | 事業場所 | 概要 |
|----------|------------|------------------------------|
| (国)9号 | 朝来市和田山町土田 | 交差点改良 |
| (一)物部養父線 | 朝来市和田山町牧田 | 自歩道整備 L=約 0.7km、W=3.5m 片側 |
| (一)物部養父線 | 朝来市和田山町和田山 | 自歩道整備 L=約 0.9km、W=3.5m 片側 |

イ. 鉄道

- ・主要幹線道路、幹線道路

| 路線名 | 事業場所 | 概要 |
|---------|----------|--------|
| JR 山陰本線 | 和田山駅～居組駅 | 地上整備改良 |
| JR 播但線 | 寺前駅～和田山駅 | 地上整備改良 |

(2)都市環境に関する都市施設等の整備目標

ア. 下水道・河川

おおむね 10 年以内に整備を予定している主な下水道及び河川は次のとおりである。

| 事業種別 | 名称 | 箇所 |
|------|----------|-----|
| 下水道 | 朝来市公共下水道 | 朝来市 |

イ. 廃棄物処理施設等

おおむね 10 年以内に整備を予定している主な廃棄物処理施設等は次のとおりである。

| 事業種別 | 名称 | 箇所 |
|-------------|----------|-----------|
| ごみ焼却場・ごみ処理場 | 南但ごみ処理施設 | 朝来市和田山町高田 |

(3)市街地整備に関する目標

ア. 防災施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備を予定している主な市街地開発事業等は次のとおりである。

| 市町名 | 地区名 | 面積(ha) | 整備手法 |
|------|---------|--------|----------|
| 和田山町 | 和田山駅南地区 | 12.4 | 土地区画整理事業 |

(4)都市防災に関する都市施設等の整備目標

ア. 防災施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備を予定している主な防災施設は次のとおりである。

| 事業種別 | 名称 | 箇所 |
|----------|----------|------------|
| 砂防 | 塩辛川 | 朝来市和田山町竹田 |
| | 泉組谷川 | 朝来市和田山町寺内 |
| | 上山谷川 | 朝来市和田山町寺内 |
| 急傾斜地崩壊対策 | 和田山(1)地区 | 朝来市和田山町和田山 |

③第一次朝来市総合計画（基本構想：平成19～28年、後期基本計画「笑顔いきいき朝来プラン」：平成24～28年）

1 基本構想

【基本理念】

市民自らが考えて行動し、ともに助け合いながらまちをつくる
（自考・自行、共助・共創のまちづくり）

【将来像とキャッチフレーズ】

人と緑 心ふれあう交流のまち 朝来市

【重要政策】

①人口施策

各事務事業に人口要因となる目標数値を設定するなど、常に人口を意識した事業執行に取り組んでいきます。

②絆づくり

市民一人ひとりが、「誰かのために」、「地域のために」と、自分で出来る範囲で行う絆づくりを全市民とともに取り組んでいきます。

【重視する視点】

①環境優先

各分野において、地球環境や自然環境の保全に配慮したまちづくりを進めるとともに、豊かな自然、清らかな水、美しい景観など四季の自然の恵みを実感できる質の高い空間づくりと、自然のかかわりを楽しむ市民生活を目指します。自然の恵みを活かした交流・経済活動を活発化します。

②安心生活

災害や犯罪、交通事故、病気などから市民を守り、暮らしの安全を確保するとともに、市民相互の助け合いを基盤とする高齢者・障害者などへの地域生活支援や、安心して子どもを産み、育てられる子育て支援を推進し、本市への定住を促していきます。

③交流活力

京阪神都市圏と近接する立地条件や交通の要衝としての優位性を基盤に、本市の豊かな自然や固有の歴史・文化、産業、人材などを効果的に活かした多様な交流活動を活発化し、人・物・情報が集まる活力のあるまちづくりを進めます。また、市民相互や市民と行政の交流・連携を促進し、地域協働のまちづくりを進めます。

【将来人口】

目標年度における人口を、32,000人と想定する。

【土地利用方針】

① 秩序ある計画的な土地利用

土地の公益性を尊重し、潤い豊かな空間を後世に継承していくため、長期的な視点を持ちながら、秩序ある計画的な土地利用を進めます。

② 環境保全と安全性を重視した土地利用

地域の活性化と環境保全の両立をめざし、環境負荷の少ない土地利用を進めるとともに、自然災害の防止対策など、市民生活の安全性を高める土地利用を進めます。

③ 地域性を踏まえた有機的な土地利用

市内各地域の特性を踏まえつつ、さまざまな資源や要素が有機的に結びつき、相乗効果が得られるような土地利用を進めます。

④ 市内外の交流を活発化する土地利用

交通ネットワークや施設の適正配置など利便性の高い基盤整備に努め、市内外の交流を活発化する土地利用を進めます。

⑤ それぞれの機能が発揮される高度な土地利用

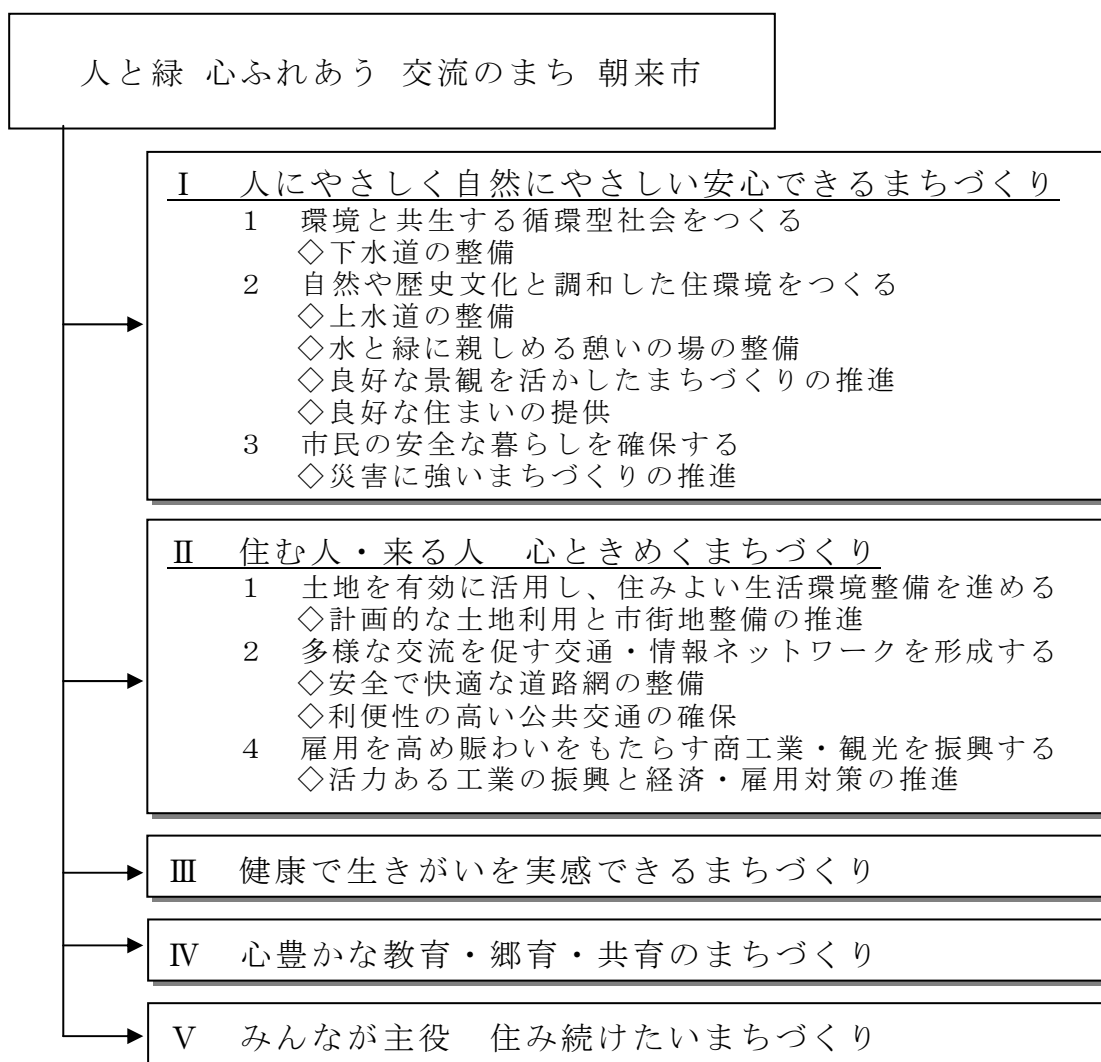
秩序ある土地利用を維持するためにゾーンを設定するとともに、それぞれの機能が効果的に発揮されるよう、ゾーン形成の方針に沿った土地利用を進めます。

ゾーン形成の方向



| | |
|-------------------|---|
| 複合都市ゾーン | ●和田山駅周辺の市街地から梁瀬市街地に至る間及び和田山* JCT・I Cに至る周辺地域を、複合都市ゾーンとして設定します。市庁舎、県事務所等の行政機能及び商業・工業などの業務機能、居住機能などが複合するゾーンとして整備、誘導していきます。 |
| 市街地住宅ゾーン | ●支所が所在する旧 3 町の中心地や竹田地区に、複合都市ゾーンと連携・補完する地区拠点機能の整備を進めます。暮らしに身近な商業などの業務機能、快適な居住機能の配置を誘導していきます。 |
| 工業ゾーン | ●既存の工業団地の立地環境の向上のほか、恵まれた交通立地条件を活かし、新たな企業誘致に対応する団地の整備を進め、優良企業の誘致と既存立地企業への支援の充実に努めます。 |
| 自然レクリエーションゾーン | ●さのう高原、多々良木・青倉山周辺、市川溪流周辺、生野高原周辺、山東自然体験ゾーン、室尾山、糸井溪谷周辺は、恵まれた自然を有効に活用したレクリエーションの環境整備を進め、観光・交流を促していきます。 |
| 農業・農村定住／緑林ゾーン(全域) | ●中山間地域の農地や森林の荒廃化を防止し、農林業生産基盤の整備と国土保全などの公益的機能の維持・向上に努めるとともに、農村集落の環境保全や多自然型の居住空間、自然・農林業の体験、余暇などの場としての有効な活用にも努めます。 |

2 後期基本計画（都市づくりに関連の強い施策の抜粋）



(2) 関連計画

①兵庫県第4次国土利用計画（平成20年12月）

この計画は、国土利用計画法第7条の規定に基づき、兵庫県の区域における国土（以下「県土」という。）の利用に関する基本的事項を定めるものであり、県下の各市町がその区域について定める県土の利用に関する計画（市町計画）及び兵庫県土地利用基本計画の基本となるほか、県土の利用に関し、各種計画の行政上の指針となるものである。

1 県土利用の基本方針

- ① 質的向上をめざした県土利用
 - ア 安全で安心できる県土利用
 - イ 循環と共生を重視した県土利用
 - ウ 美しくゆとりある県土利用
- ② 有効かつ適切な県土利用
- ③ 総合的なマネジメントへの配慮

2 但馬地域における県土利用の基本方向

但馬地域は、豊かな森、川、そして海等の優れた自然環境を有しており、これらの豊かな自然を活かした観光・レクリエーション産業や家具、鞆等の地場産業、農林水産業を中心に発展してきたが、都市的利便性・サービスに対するニーズも高まっている。

今後は、引き続き、農林水産業の振興を図りつつ、環日本海交流における県の玄関口として、豊かな自然を舞台とした交流基盤や自然と調和した都市的魅力を有する生活基盤の整備を図る。

このため、広域交通体系の整備、住宅地、教育研究施設の整備等の都市的土地利用に必要な用地の確保を図るとともに、中核となる都市においては、教育、文化、情報通信等の都市機能の充実、保健・医療・福祉の一体的推進に資する施設の整備、生活環境の向上のための道路、公園・緑地、河川、下水道等の都市基盤施設の整備により、安全で安心できる良好な市街地の形成を図る。

一方、農山漁村においては、流通や加工過程を含め付加価値の高い地域特産物の生産活動に必要な用地の確保を図るとともに、農用地、森林及び漁港の整備と利用の高度化を図り、あわせて、生活環境の向上のための都市基盤施設の整備を進める。

また、海岸、森林、温泉、二次的自然としての農地等の多彩で豊かな自然資源は、保全に努めるとともに、コウノトリも住める環境が、人間にとっても安全で安心な豊かな環境であるとの認識のもと、住民や各種団体、行政が協働して、田園の自然再生、安全・安心な食と農、環境教育等への取組を通じて、地域全体を自然と共生

するモデルエリアとする「コウノトリ自然博物館構想」を推進し、名実ともに「コウノトリ翔る郷」として地域をあげた取組を進める。

さらに、冬季においても快適な生活を維持するため、雪に強い道路整備など、利雪・克雪を含む総合的な凍雪害対策を進める。

② 緑条例～緑豊かな地域環境の形成に関する条例（平成 16 年 7 月）

平成 17 年 11 月、南但馬地域（養父市・朝来市）において緑条例が施行され、緑を軸とした広域的な見地から土地利用を考えつつ、自然に配慮した開発誘導により、自然と調和した地域環境の形成が図られている。

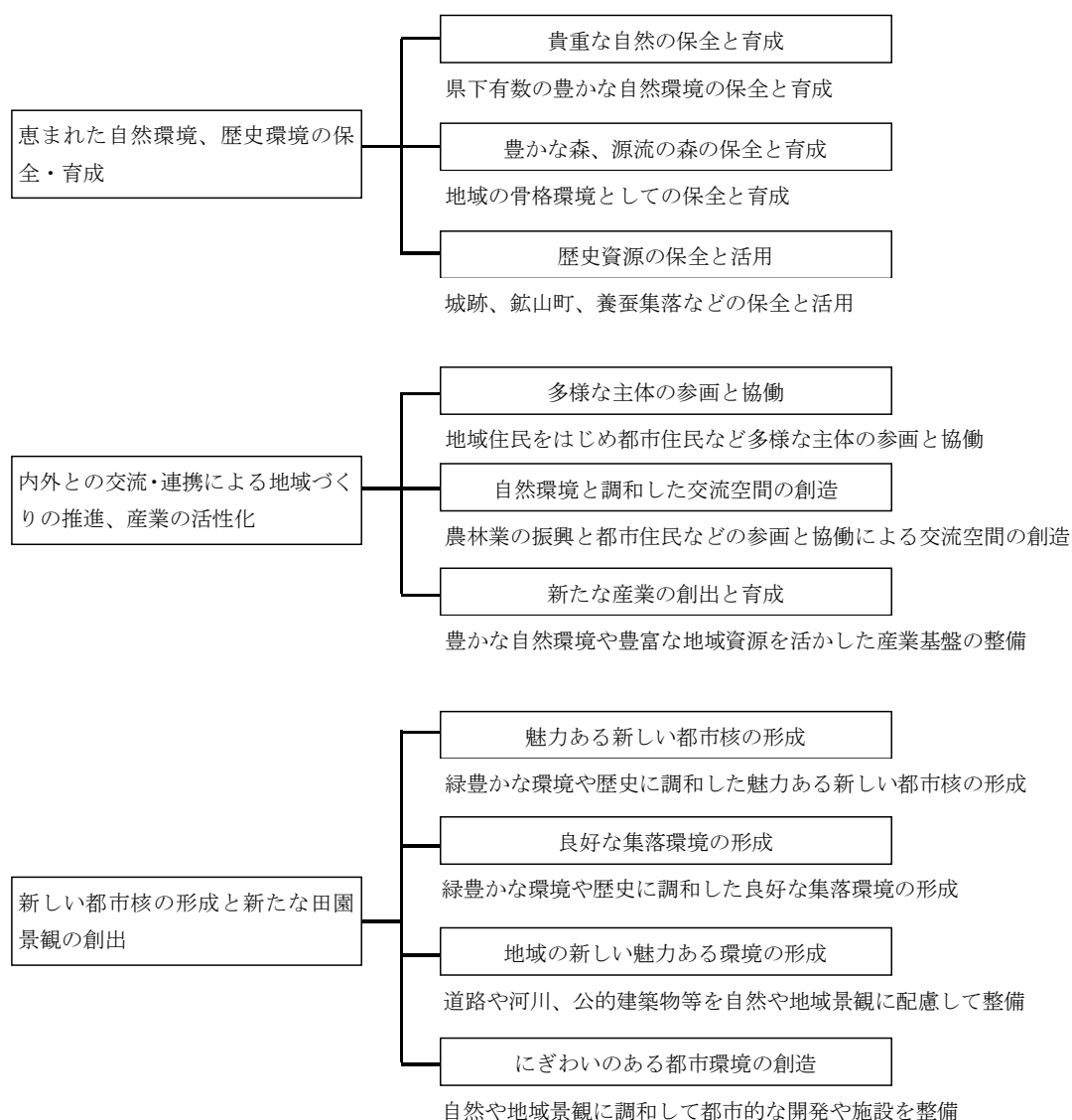
【地域づくりの基本方向】

- ・豊かな自然環境、歴史環境の保全・育成と活用による地域づくり
- ・地域内外との交流・連携による地域の活性化
- ・多様な主体の参画と協働による地域づくり

【地域環境イメージ】

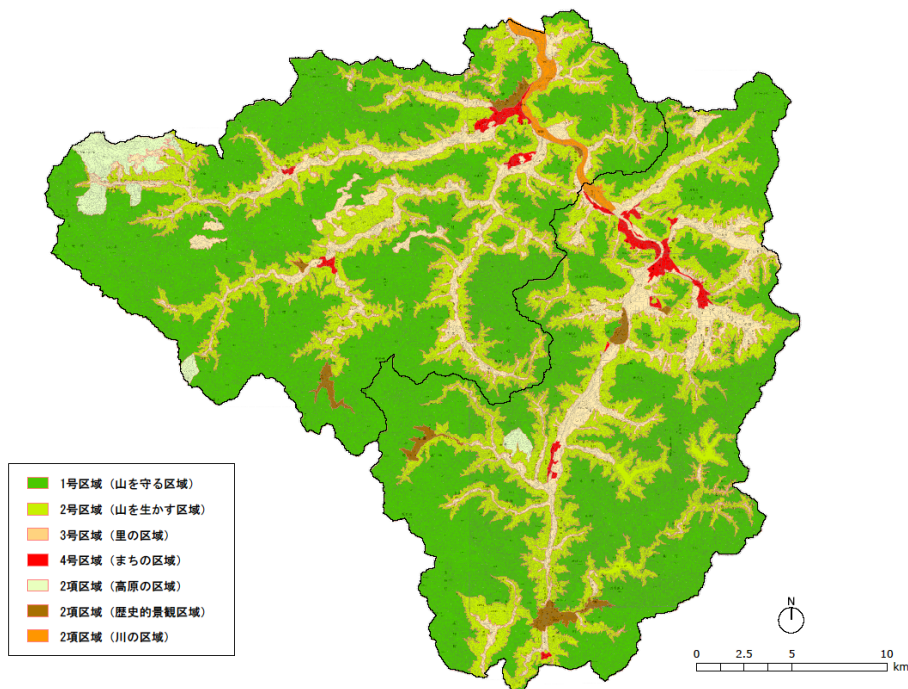
『山岳・高原』の豊かな自然と共生した、活力ある『癒しの郷』環境の形成

【地域環境形成の基本方向】



区域の概要と指定状況

| 区域名 | 概要 | 指定区域 |
|-------------------|---|---------------------------|
| 1号区域 (山を守る区域) | 風景形成の観点から特に重要な土地の区域で、森林としての土地利用を通じて形成される緑豊かな環境の保全を図る区域 | 山間部 |
| 2号区域 (山を生かす区域) | 現況の森林を主体とする区域であり、今後とも森林としての土地利用を通じて、森林が持つ多面的な機能の発揮を図るとともに、多様な交流を生かして森林等と建築物等が調和した緑豊かな環境の形成を図る区域 | 谷沿いの山裾部分 |
| 3号区域 (里の区域) | 現況の農地を主体とする集落等を含む区域であり、今後とも農業等の営みを通じて農地が持つ多面的な機能の発揮を図るとともに、農地、集落等が調和した田園としての地域環境の形成を図る区域と山間に集落が形成されており、今後とも人々の生活の場として緑豊かな環境の形成を図る区域 | 農業振興地域を主とする地域 |
| 4号区域 (まちな区域) | 都市的な施設の集積により地域環境が形成されており、今後とも人々の居住や都市的な活動の場として良好な市街地環境の形成を図る区域 | 和田山、和田山工業団地、矢名瀬、新井、生野工業団地 |
| 2項区域 (高原の区域) | 優れた自然特性を生かし、地域と都市との交流施設が整備され、交流の場としての地域環境の形成を図る区域 | 佐囊 |
| 2項区域 (歴史的景観区域) | 人々の営みにより歴史的・伝統的な特徴ある景観が形成されており、歴史・伝統を継承した趣のある市街地等の環境の形成を図る区域 | 竹田、生野、茶すり山古墳 |
| 2項区域 (川の区域) | 広がりのある平野部にゆったりと横たわった河川は、上流、下流、対岸への広い眺望が開けた河川風景が形成されており、今後とも良好な河川を主体とする地域環境の形成を図る区域 | 円山川沿川 |



環境形成区域指定図 (南但馬地域)